100円

化運動に対する理論的基礎を与え

ものかもたらず彼等の革命的能力 に求めているのである。

コミンテルン内のボルシェヴィキ | 拠を労働者階級の経済的地位その

裁の理論と戦術である」と規定し リア革命の理論と戦術であり、特 殊的には、プロレタリアートの独

者が社会主義的意識と結合する根 |主張しているが、その場合、労働 主義的意識)をもち込むべき事を

1973年3月25日発行

ぎない現象ではない。……レーニ 現象であって、単にロシア的にす らず、「レーニン主義は、国際的

発展全体に根をもっている国際的

ン主義は、一般的には、プロレタ

盟

同

(RG)

学で開演され後に成文化された。

これは 一国分派の存在と両立し

ーリンによって、スベルドロフ大 ーレーニン主義の基礎」は、スタ

ならない。

| 輪に対する党の態度が問われねば | 労働者階級を労働組合主義の道か

らひきはなして、彼らを独立した

ってしまった。

である」

派の

野村

を主張して、ロシャ共産党内の左 ない、意志の統一体としての党」

何ズターリン

(前号掲載)

の組織観

報

批判

赤

リン主義打倒、 反スタ マル 復権の旗を更 国際非合法党を建設せよ

> 第二章 第章

烽火一派の組織に関

(中) |本号掲載 スターリンの組織網

第四章

序文

(1)

批判

スターリンの資本主義

(±.)

「体系的非合法党」

Ē

月目

次》

第三章・火一派の組織に関

(a)スターリンの組織観批

する根本思想(Ⅱ) する根本思想(Ⅰ) 共産主義と民主主義 —前号掲載

17 六回大会規約と「三・

a ス タ 烽 関 1 する根本 火 ŋ の 派 思 の .想(Ⅱ) 組 織

組 織 観 批 判

()スターリン

の資本主義

の死後間もない頃であったが) に また、一九二四年一月のレーニン 一つけられようとした時期(それは (ジノビエフ、カーメネフ、スタ されたロシャ共産党内の三頭政治 -派)との党内闘争がほぼ決着が ーリン)と左翼反対派(トロツキ 一九二二年中頃から公然と開始 らない」(同P!一四)と述べて ついての知識で、革命の法則につ いる。だから、理論の内容及び理 いての知識で、武装しなければな は、革命的理論で、運動の法則に 真に前衛部隊となるためには、党 部隊でなければならない」「だが している。 によりもます、労働者階級の前衞 その二つの政治的目的を果そうと レーニン主義の基礎」は、その党 についての項(第八章)において 行ったのだが)の武器であった「一に立たねばならないし、また労働 これをヴォルシェヴィキ化として キー派、ローザ派との党内闘争(第一にスターリンは、「党はな である。 らない」「プロレタリアートの前 者階級よりも遠くを見なければな アートの階級的利益を理解できる 衛部隊の見地に立ち、プロレタリ

目的と任務についての意識(社会 自身の経済的地位と、彼ら自身の と述べ、労働者階級の中に、彼ら一 | らだけ、労働者にもたらすことが | 働者の魔主に対する関係の圏外か つまり、経済闘争の外部から、労一 出来るのである。」(P|二四) 論」についてふれ、「階級的、政 治的意識は、ただ外部からだけ、 か』の中で、いわゆる「外部注入 レーニンは、「なにをなすべき」 意味である。 ければならないという事であり、 は「法則」の認識者集団にならな | ければならない」という事は、党 |政治勢力に転化する事が出来る] 「前衛部隊」というのは、「法則 (P一一五)と言っている。 そして、「プロレタリアートの にもとづいた、革命の道すじを 「労働者階級よりも達くを見な | 態としての党」といっている。

は修正されている。

アートの独裁を社会革命のための

「道具」として利用するのだ。

レーニンは「組織以外の全ての

いるかに見えるこの思想も実際に

だが、レーニンを一見継承して

レタリアートの階級組織の最高形

更に、スターリンは「白、プロ

減と、ヨーロッパにおけるトロツ「展の法則」や「革命の法則」に革一合主義の道からひきはな」す事は ロシア共産党内左翼反対派の壊 | 現実に根拠をもたない「社会発 | な党」は、「労働者階級を労働組 外の何ものでもない。「このよう |大衆に認識させようとするとと以 | 判的に対象化する事によって生ま 一義の基礎」)と「革命の法則」を 衆をたかめる」ということは、「 | 階級的利益を理解できる水準に大 レーニンの教条」(「レーニン主 | 組織」に変ったことの意味する事 につながっている。 れる」というところを削除した点 は、「組織以外の全ての要素を批 ン)が「プロレタリアートの階級 P三二)と言っているのである。 の最高形態」(レーニン全集31巻 「プロレタリア的団結」(レーニ

(b)RGの清算 (下) — 次号掲載予定 命の問題を変えてしまったスター 政治局=軍事委員会 業革命家とする党群 RG=政治軍隊を職 設の意義について に

組織しなければならないのだ。 事が出来るのであってこの点から |世界プロレタリアートの独裁、世 | 規約で次の様に書いている。 容(今日では世界共産主義革命、一 会帝国主義打倒)を明らかにする 又、共産主義的政治を実現する 「労働組合主義」に対する闘争を 界革命戦争、スターリン主義、社 時代における共産主義的政治の内

法則」「革命の法則」(同一一四 リンは、結局、党を「社会発展の の認識者集団にしてしまったの 原則から導びかれてはじめてその

彼は「覚は、労働者階級の先頭

| の党が必要なのであり (組合主義 為にこそ、レーニンの言う革命家

であることが明らかになる。 リアートの独裁)は彼自身の義務 腐しなければならない事、 労働者 る政治運動は手段としてこれに従 済的解放が大目的であり、あらゆ える事によって、労働者階級の経 会における階級支配の実態をふま ゆる隷属があるという資本主義社 従している事を根底にして、あら 階級闘争に対するマルクス主義の 階級の政治権力の獲得(プロレタ と地主に労働者階級が経済的に隷 この労働者階級の経済的地位と 生産主段を独占している資本家 ている。

タリアートは、有産階級によって るため」ではない。 マルクスは、第一インター一般

助する事が出来る。

立する別個の政党に自分を組織す 力に対する闘争において、プロレ このようにプロレタリアートを

| 要なのは、独裁を獲得し、維持す | アートの独裁の道具である」 (問 るためである。党は、プロレタリ での問題を、党派闘争を通して対 アジーの反抗を鎮圧し、小ブルジ P一二五)という規定に結びつい いる「覚がプロレタリアートに必 ターリンは削除したのである。 象化するといっているところをス おいて、その思想的、政治的分野 | 標たる階級の廃止」との勝利を確 ョアを同盟軍に引きよせる闘いに この事は、彼が第四点にあげて

| 要なのは、独裁を獲得し、維持す | ではなく、労働者階級の経済的験 「党が、プロレタリアートに必

ることによってのみ階級として行一ルショア的、又、小ブルショア的一的破魔に関してである。 つくられたすべての古い政党に対一の闘争、資本主義のさまざまな残 傾向との闘争を含めた階級闘争の **達にもとづく労働者階級内部のブ** いて発生する小ブルジョア意識と

第七条の、有産階級の集合的な | ブルショア階級の反抗の鎮圧だけ | について若干、次にふれておく必 プロレタリア独裁の時期は、単に一リンの組織がはたした政治的意義 手段として利用するのであるから 属からの解放、社会革命のための | 圧迫や搾取からの解放のためだけ に覚を利用したのである。 ニン死後、自己の政治目的のため その様なものとして彼は特にレー | として党を考えているのであり、 目的にしてしまい、その「道具」 レタリアートの独裁の「維持」を ところで、覚は、プロレタリア ト独裁権力を生産手段の収奪、

新しい段階なのであって、とれら | 題が最も煮つまった事件の一つは

タリア独議下において、ブルジョ | 係そのものからの解放を見ない事 | ことによって強敵になる。」(同 党を考えるのでなく、結局、プロ | 保するために不可欠なものとして リンは、「社会革命とその終局目 にある。とのことによってスター P一二五~一二七)というスター

| ではなく、小商品生産に基礎をお | 要があろう。 して来た。

第一の問題は、いわゆる基本組

第二の問題は、コンテルンの組織 織と軍事組織に関する事であり、 基本組織と軍事組織に関する間

スターリンが、どの様に抜き去り ・ーリンの思想との隣連で明らかに 独裁と資本主義批判に関するスタ 歪曲したかを、 プロレタリアート て、レーニンの組織思想の核心を 主義の基礎」を検討する事によっ 用するためのものであった。 ことができなかった結果であって リンの規定は、左翼反対派(トロ の政治支配を打ちたてるために利 、その規定は分裂を封鎖し、自己 コミンテルンにおいて、スター 以上、われわれは、「レーニン

ロレタリア党の創造を口にすると とさえ出来ないのた。」(阿) 権力を奪取しうる真剣な革命的プ れわれはブルジョアシーの手から

細胞である」「党の政治的組織的 「覚組織の基礎は、工場内の党

ればならぬ」(工場細胞の組織に 事業の強調は、工場細胞に移され 関する共産主義インターナショナー のための闘争に、彼らを導かなけ て、工場細胞はプロレタリア独裁 常的必要のための闘争指導によっ なければならない。労働大衆の日

一)の総括は、ドイツ共産党の組織 | ン(ジノヴイエフ・スターリン派 についていえば、二つの点からな ドイツ事件に関するコミンテル ていたといわねばならない。 得する事を強調することは的を得 なぜならドイツの事態は次の様 に、プロレタリアートの多数を獲 確かに、武装組織の強調ととも 執行委員会の決議)

政府)の廃止を命令した。 チューリンゲン両政府(注、プロ クト将軍は国防軍にザクセン及び レタリア防衛政府、社共連立の州 の要求)を拒絶し、そして、ゼー 織)の解散要求(注、國防軍から 人組(注、ドイツ共産党の軍事組 一九二三年三月成立)は、赤色百 党の支持を受けた社会民主党政府 なものであったから。 「ツアイクナー政府(注、共産 ಕ್ಕ

党)ツェントラーレは、繭場一致 十月二十日、KPD(注、共產 』ととを示したが、しかし、とれ とってもまた、完全に有効である | アの党の組織原則が西欧の諸党に 「論文では、ドイツの経験は「ロシ この決議と一緒に発表された一

らの原則の若干(注、

工場細胞=

る。

|、その脳争の本質を明らかにする | この点で今までに行なわれたこと |ッキー派)との党内闘争に対して |の最も重要な任務である。…… は、大洋中の一滴にも及ばない。 してであった。 ショナル執行委員会の復間) | 大会に対する共産主義インターナ ばならぬ」(ドイツ共産党第九回 | られたものと、他の革命的労働者 人組を強化するために働かなけれ も参与するものと、双方の赤色百 他の一つは、党の基本組織に関 労働者の武装は、依然として党 党は、もっぱら、党員でつく を実現する為の党の改組が問われ ント耳、P六九) 至った」(コミンテルンドキュメ | 及んで、叛乱の決定を破棄するに | 会合していた工場委員協議会と協 いう一見矛盾した二つの獲得目標 試験組織の強化と多数の獲得と 会職もKPDの提案を拒否するに 酸することに決したが、SPD に先だち、あたかもケムニッツに (注、社会民主党) もケムニッツ

「七、労働者の武装、赤色百人

しかし、ツェントラーレは行動

かったことを認めざるを得ない。 細胞を基礎として組織されていな (ドイツ共産党) が共産主義工場 「われわれは、今まで、KPD …たが党の基礎が工場の共産 上の問題が提起されたと考えてい の基礎組織とする点から答えた。 色百人組の強化)と工場細胞を党 れに対して、武装組織の強化(赤 ジノヴィエフ・スターリン派はそ たのである。 コミンテルンの主流派であった われわれは、ここに重要な組織

主義細胞にあるのでなければ、わ 否! と答える。 しているかという問題である。 | の独裁を正しく準備する事を意味 組織とするという党組織観に基づ 事がはたして、プロレタリアート いて党の武装組織の強化をはかる ら われわれは、その問題に対して すなわち、工場細胞を党の基礎

ないと。 武装組織の強化をはかる事は出来 て、又、当然、武装組織を正しく | を準備しうる組織ではなく、従っ 党の中に位置づける事が出来すい 決して、プロレタリアートの独裁 組織という組織機に基づいた党は なぜなら、工場細胞=党の基礎

指導とを引き出しうる源泉であ 輪と実践の全問題について教訓と | ロレタリアートが、階級闘争の理 北はロシアだけでなく全世界のプ 界共産主義の最も重要な財産であ | する企ての一部であった。ロシア 述べている。『RCPの経験は世 銘配するために採択された同党中 央委員会のテーゼは、次のごとく 共産党(RCP)創立二五周年を 組は、覚を「ボリシェヴィキ化」 ……その歴史、勝利、及び敗 「工場細胞に基づく共産党の改

関する共産主義インターナショナ 十九日) ル執行委員会の声明、二四年一月 (一九二三年十月のドイツ事件に ┃ でゼネストを宣言し、計画の小統 ┃ 一万一〇〇〇挺にすきなかったが 五〇万挺に比して入手出来たのは

| 示し、その先を進んでいるという | って生まれるプロレタリア的団結 | 誤りはどの点に理論的根拠をもっ | の党内闘争といった党派闘争、党 ているのか。 では、スターリンのこのような

要素を批判的に対象化する事によ

すなわち、レーニンは、プロレ

らす結果にすぎない圧迫や搾取か

一らの解放を謳うが、経済的隷属関

は労働者階級の経済的隷従がもた P六一)という様に、スターリン 適合させられたものである」(同 プロレタリアートの独装の任務に ら完全に解放するという任務に、

勤労大衆をあらゆる圧迫と搾取か それは、「ソヴェト権力は…

ったのである。

党は日和見主義分子をとりのぞく 憲志の統一体としての党。」「云 「闽、分派の存在と両立しない

水準に大衆をたかめる事の出来る「的政治を実現するためだけなら労・一つの政党に組織する事は、社会一との党派闘争の勝利によって、社・一九二三年十月の「ドイツ事件」 組織に関する根本思 組織間 想の批判

命戦

| 党だけが――このような党だけが | 出来働者の組織で十分である) ス | 革命とその終局目標にる階級の魔 | 会革命令前進させる事が出来るの | であった。 ターリンは、この思想をもぬき去 | 止との勝利を確保するのに不可欠 | である。 廃止との勝利を確保するのに不可 |の道具」なのではない。 党は「社 | 会革命とその終局目標たる階級の 「党はプロレタリアートの独裁 独裁を、搾取、圧迫からの解放、 を見る事が出来す、プロレタリア 会の支配隷属関係の実体がある点 | 済的隷従を根底にして資本主義社 スターリンは、労働者階級の経

| 欠なのである」。党はプロレタリ | ブルジョアジーの反抗の抑圧の手 のための「道具」とする点から、 裁の「維持」を目的にし、党をそ 小ブルジョア政党及び共産党内部 事が出来なかった。 内闘争に対する正しい基準を持つ 革命のための、ブルジョア政党、 段とのみ考える事によって、社会 その結果、プロレタリアート独 勢力を築中する事さえ出来なかっ 壁的任務については、長期間その で発展させたにすぎない。特に戦 一様的に強化する能力を僅少の程度 **組織における影響力の増大を、組** てであった。 された。 一つは、軍事組織の強化につい 「同党はそのプロレタリア大衆

党派闘争、党内闘争を組織してい 一た。政権奪取のための技術的準備 か実行されていなかった……」 武装と内部結束とは、最少限度し その機関の再集合、赤色盲人組の

報 昭和4 明らかにし、又、どのようにその な型」とは、まさに「レーニン主 の「勝利」の結果であり、更に来 後はじめてロシアに適用されたの一明する事が出来ず、従ってプロレ がとこでは問われねばならない。 どのような事を意味したのか? 応用されなければならないと主張 党の基礎組織 —-引用者)は革命 | 的諸条件が単備されているかを解 | 主義相臨にあるのでなければ、わ | 地方委員会の委員の多数が工場内 | かっている時に、彼らが武装闘権 | 不られた共産党の核成、その活動 | も触れえないだろう」(ドイツ共 | では、各国共産党の基礎組織 —工 | 各国英産の総和としての世界革命 して来たのであるが、この「静的 ンの著作「レーニン主義の基礎」 たのであるが、その理由はどこに リンは、この「静的な型」を全世 党内闘争史上P|五七)たスター 的型に衞き変え」(ロシア共産党 後政体のヒエラルヒー的組織の静 ナミック的な革命図式」を「革命 提起したのはなぜか? それは にもとづくドイツ共産党の改組を 二一年)されたロシア共産党の型 タリア独裁下において改組(一九 ドイツ革命の総括として、プロレ 対する闘争の布石でもあった。 飲のローザ派、トロッキー派、に るべきコミンテルン第五回大会・ するスターリン、シノヴィエフ豚 ツ「十月事件」をめぐる紛争に隣 反対派(トロッキー派)とのドイ 対する態度は、ロシア国内の左翼 中央委員会の国際共産主義運動に る一九二三年段階のロシア共産党 注であるが、ここに述べられてい の委員の多数が工場細胞に属して ける工場細胞の組織について特別 的方法の遺物であった。 算のみに関心を有する社会民主党 に反して、西欧では、革命前に応 (コミンテルンドキュメントⅡ、 いなければならぬと規定した。」 一九二四年、六月)における、西 地域に基づく組織は、投票の計 われわれは、すでに、スターリ スターリン、シノヴィエフが、 これはドキュメント編集者の呼 同時に常任幹部会はドイツに於 *前衞』というレーニンのダイ 「労働者を指導する共産主義者 |たが、党の基礎が工場の共産 かったことを踏めざるを得ない。 的要求で組織し、武装したのであ 動を行い、労働者階級を共産主義 等)を実現するために、労働者階 プロレタリアート独裁、武装蜂起 級に対して、宜伝、煽動、組織活 主主義闘争を指導するのみならず って、労働者階級の経済闘争、民 職業革命家を中心とし、プロレタ の否定を意味したのである。 際それは、プロレタリアート独裁 の屈服の道を歩んだのであり、実 その結果、組合主義、経済主義へ 取からの解放」に大目的を修正し の一つである搾取を、経済的不平 注入論」を放棄してしまった。 家を中心とした党を結局は否定し 共産主義革命を指導する職業革命 の基礎」にあらわれている様に、 ではない(もし正しい思想に貫か | もプロレタリアートの独裁を射程 党に移行する事によって、あたか まドイツ及び資本主義諸国の共産 裁の時期のロシア共産党をそのま ったが故に、プロレタリアート独 想を継承発展させる事が出来なか 命家の党、すなわち、マルクス・ タリアート独裁を射程に入れた革|権力を奪取しうる、真剣な革命的 共產主義的政治(共産主義革命) 等の原因とみる事によって、「搾 ではなく、経済的隷従による結果 級の経済的解放を大目的にするの にしてしまい、レーニンの「外部 」「革命の法則」「運動の法則」 ス主義の原則を「社会発展の法則 てしまった点にある。 することは決して誤りではない) れている党なら、その思想を移殖 党に移殖しようとした事にあるの アート独裁下の党を資本主義下の に入れた党建設を提起しているか レーニン主義の党組織に関する思 更に、スターリンは、労働者階 レーニンの党は、成員を厳選し 彼は、階級闘争に関するマルク 「われわれは、今まで、KPD 主要な誤りは、「レーニン主義 誤りの主要な点は、プロレタリ しかし、それは誤りである。 |動全体を行う委任と全権を直接に | 「ある」とした上で、「地区及び、 |党組織の基礎は、工場の党細胞で | え世界革命への途を消めつつある したのである。 の工場の労働者に党のための活動 | 議して一連の会見を指定し、工場 加入した以上は、戦時に上官の許 数の革命家によって構成されなけ 準備しうるのだろうか? |にしたレーニンの党に対して、「 | 帝最主義に対して致命的打撃を加 おける労働者の指導に対してもそ う観点から、以上の様に、工場に 内等下級委員会を結合させるとい 地方委員会が、中央委員会と工場 し選定する全権を賦与する様、地 に試験し..... 委任する。委任を受けたこの特別 場内下級委員会を組織することを |離れ彼れ……にいたるところに工 みなければならない 任者―地方委員会のあらゆる命令 はすべて、自分を地方委員会の受 地方委員会から受けたきわめて少 る手紙」で次の様に述べている。 の獲得の重要性を教えた。 闘争の重要性、工場委員会内多数 | の犗筋、一九二四年三月二六日) | 者の自然発生的要求実現のための | の前文、すなわち階級闘争に対す ことさえ出来ないのだ」(ドイツ プロレタリア党の創造を口にする を委任するか、職業革命家を派遣 方委員会に提議する。」 に、下級委員会全体をつくり人選 内下級委員会の委員候補者を十分 委員達は、地区の全権委員達と協 個」を守る義務のある受任者―と 「野戦軍」のあらゆる「法則と習 一可なしに脱退する権利をもたない に従う義務があり、またいったん の任務についての一同志にあたえ て本当にプロレタリアート独裁を | 共産党第九回大会に対する共産主 | の否定すなわち解党主義の組織思 | 約には、第一に、その前文に於て ればならない。工場委員会の委員 会は……工場での社会民主主義活 主義細胞」といった組織観によっ 場における、社会民主党との党派 終インターナショナル執行委員会│想であり、②実際、党細胞を労働 れわれはブルジョアジーの手から この様な職業革命家を「基礎」 たしかに、「十月事件」は、エ レーニンの党は、中央機関紙と レーニンは「われわれの組織上 「あるいは、これこれの労働者 「工場グループまたは工場委員 だが、「党の基礎=工場の共産 「地方委員会は自己の委員中の |時』そして内戦が数ケ国で燃えさ一」(コミンテルン第三回大会で採一ブルショア官憲といえども、一指『における妥協を追め、◎、組織上一削除と歴史叙述へのすりかえ、◎ 一首った。「勝利せる赤軍が連合軍 らを除蔽する事によって共産党員 ろうか。 て、カバクチェフは答えて、それ శ్ | ターナショナル規約採択の時であ | 先だつ時期においては、われわれ | ことを、理解させられなければな |ア内の論争は除く)を「ドキュメ」の緊密な、もっぱら軍事的な組織| い」(コミンテルンドキュメント は追客を免かれる事は出来ないと いるという委員会での反対に対し 法組織があまりに強調されすきて 大会(一九二〇年)共産主義イン ント」は示している。 の輪争が内部にあったこと(ロシ ミンテルンはこの時期までに三度 た。 ンテルン最大の問題の一つであっ | が掌握していなければならない。 すでに、一九二三--四年当時コミ 常に同一かつ単一の中央党委員会 組織と軍事組織に関する問題は、 大の組織問題の一つであった基本 | ている。 武装組織を強化することは可能だ 点から政組された党を基礎にして 一同様構成で組織されたのである。 工場内下級委員会も中央委員会と 裁を射量しており、この点から、 一求に立脚し、プロレタリアート独 ある。 共産主義革命を組合主義、職会主 革命家を軸としないことによって ざるを得なかったのである。 連合主義、分権主義的組織に陥ら の細胞の位置によって政治的対立 発生性と闘うことが出来す、個々 に立脚しないことによって、自然] のみならず、更にその点から、第 |済的隷属を打破しようとする要求 | ヴィキ党の経験が採用されている 本家階級に対する労働者階級の経 | は中央集権主義の思想とボルシェ 労働者階級の共産主義的要求、資 機関ととらえてしまっており、③ ①職業革命家を中心とした党組織 □、P八四)といった党組織は、 細胞に属 していな けれ ばならな 第一回目はコミンテルン第二回 が起きざるを得す、④その結果、 との、党と軍事組織についてコ 工場細胞=党の基礎組織という | 移される様見守る義務を有する] 結局、この組織の改組は、職業 レーニンの党は、共産主義的要 | ッパ及びアメリカにおける情勢は 「規約の中で、武装闘争と非合 |九六九年以降革命戦争派の最| 組織と党について次の様に提起し| |て関う組織として訓練されなけれ | 労働省のために武器を得べき手入 | 軍事組織は直接的に役立つ党活動 | って設置された、 孤立した革命的 | 間に深く根をおろすであろう。 ならない。全党は、革命を目指し | 的な共産党活動の結果でなければ いる者が度々ある。これは完全な |動及び党組織から遊離した、結合 | 共産党組織活動を、その他の党活| 月蜂起(一九二一年三月)等の総 たり士気担喪したりしがちである | ぬ。彼らがそうでありさえすれば を行わないために、程なく解散し ばならない。 | まちがいである。反対に、革命に | 人組が日常闘争に要求されている の双方の党員の中には、非合法的 問題が規定されている。 第一インターナショナル一般規約 革命に先だつはるか以前に早ま一時、赤色百人組は初めて労働者の の闘う組織は、まず第一に、総体一らない。われわれが赤色百人組を の創設及び維持であると理解して ・「合法的及び非合法的活動は、 | 曲であり、スターリンの著物「レ 会は、すべての国でこれが実行に 全世界の共産党をして、合法組織―ザ派が、工場細胞―党の基礎組織 打倒も、国家の完全な廃止への過 ており、第二に、規約本文に於て るマルクス主義の原則が復権され とを余儀なくせしめる。執行委員 と並んで非合法組織を創設すると 和国を創立する為に、武装闘争を の目的は、国際ブルジョアジーの を経て、武装闘争と非合法組織の 三に、職事録にみられる様な討議 会議事録であるが、決定された規 はたしてできるだろうか?」 について語るととをためらう事が 括を経て、コミンテルンは、軍事 うことである」「十二、全ヨーロ 渡的段階としての国際ソヴェト共 「共産主義インターナショナル 五五、合法的及び非合法的な党 であり、それは、実際には、解党 リン、シノヴィエフ、カーメネフ 一九二一年になると、ドイツ三 ととに引用したのは、 第二回大 に根深く固定していなければなら れを行なう者の観念に馴れさせる 動を防衛し、闘士の逮捕を阻止し 国防軍の攻撃から労働者の示威運 たのだろうか? 武装組織は、どのようなものだっ|個繁破の全面的開始の合図となっ わけだがこの様な組織に基づいた 主義、議会主義の組織論となった 主義、合法主義、組合主義、経済 いる組織観の具体的な実践の一つ ーニン主義の基礎」に表わされて 基礎組織」はレーニン組織観の歪 たのであった。「工場細胞=党の | 左翼反対派の限界も同時に暴露し | であって、帝国主義に対する屈服 | 当らない。従って、とれらの事は | マルクス主義の原則の歪曲の結果 組織を位置づけたという証拠は見 | にもとづいて、軍事組織や非合法 | 破産に関してであるが、それは、 ると指摘した上でレーニンの思想 して、それがレーニンの歪曲であ に基づくドイツ共産党の改組に対 た。もっともトロンキー派やロー | ーニンの党の思想を歪曲していっ | づけたものであり、この様な組織 | スターリン派、ジノビエフ派のト | の基礎組織におくことによってレ エヴィキ化の下に、工場細胞を党 ج 事件をめぐる党の改組の問題であ て来た様に一九二三年ドイツ十月 軍事組織、非合法組織として建設 験)を発展させる事によって覚を |の復権とヴォルシェヴィキ党の経 | インターナショナル | 般規約前文 会で決定された規約の精神(第一 ている事を見る事が出来る。 めて類似した内容として展開され | 党と軍事組織をめぐる論争がきわ が国の革命戦争派が直面して来た の方法と内容とに関するテーゼ) 彼らは、工場内で労働大衆の間 ノビエフ派は、共産党のヴォルシ 第三回目の論争は、すでに述べ する事が問われたのである。 コミンテルンのスターリン、シ | 基づく党の改組は、実際には第二 | 含む、スターリン組織観の全面的 まさに、コミンテルン第二回大 | ととには、一九六九年以降、わ 「……ドイツ労働者は、赤色百 しまう事によって、第二インター レタリアート独裁と問義語として ②戦術上では、労働者政府をプロ 主義を石女の思想に変えてしまい | よいが) との大会はコミンテルン ツキー派等左翼反対派に対する各 ナショナルに対する戦術上の原則 事によって、マルクス・レーニン る思想をコミンテルンに宣伝する ーガンの下に、スターリンの著格 | 産党のボリシェヴィキ化] のスロ の破塵の合図でもあった。 たが、同時に(従ってといっても と西欧における、ローザ派、トロ おける左翼反対派に対するスター る原則に於ける妥協であった。 「レーニン主義の落磋」にみられ のの崩壊を意味していた。 経済主義への屈服を組織面で基礎 一なく崩壊したのである。 裕間) 産党第九回大会に対する共産主義 (三頭政治)派の政治的「勝利」 二四年、六一七月)は、ロシアに と第二インターナショナルに対す 一口でいって、階級闘争に対する かなく、もはや、武装組織そのも 会主戦、経済主義の防衛組織でし に付属する武装組織は、当然、職 って、ドイツ共産党の職会主義、 インターナショナルへの屈服であ | 採用に基づくコミンテルン機構の 期には、ナチと一戦もまじえる事 」を生み出し三十年代の革命の時 以降ナチ突撃隊への多数の「転向 軍団に陥り、23年ドイツ十月事件 局は労働者の自衛組織、公然示威 産党の軍事組織でありながら、結 織として鍛えられることなく、共 蜂起と政治権力の獲得のための組┃二○年)の規約が、③マルクスの 置かれるととなく、従って、武装 も一〇万とも言われているのであ インターナショナル執行委員会の この大会は①縄領的には、「共 るが、この軍事組織は党の中軸に コミンテルン第五回大会(一九 第二の問題は、コミンテルンの この赤色百人組の数は、三万と √ンの改組(新規約の決定)をスタ 「工場細胞≕党の基礎組織」に | まって、コミンテルンを一国主義 一改組がもり込まれたのである。 クス・レーニンの資本主義批判の 会の路線は一層完成される。 (一九二八年)に至って第五回大 れた後のコミンテルン第六回大会 基礎を与えたのである。 連合主義分権主義に解体していく するスターリン派の「勝利」と相 同時に國際主義者であった) に対 をも与えたことになり、それは、 義、議会主義に陥いる組織的基礎 に、解党主義、経済主義、組合主 細胞におく事は、すでに述べた様 った。 派を組織的封殺するに最もつごう | たし、又、ロシア共産党第一○回 | プロレタリア世界独裁をめざした て、第五回大会で改訂された規約 各国における左翼反対派(彼らは は特別の意味をもたざるを得なか 経営細胞においたことは、これと ┃のような態度をとって来たか明ら よく利用されたのである。 コミンテルンの機構の改組は反対 大会で決定された党機構に似せた | しばりつけておく為に有効であっ | なしに、国際非合法党を建設し、 | はこの場合、反対派を関内活動に | その為にこそ改訂されたといって | ロツキー派、ローザ派等左翼反対 般規約前文の削除と極端な改悪、 の経験の普遍化、③武装闘争と非 派を各個撃破する為の武器であり 合法組織の強調であったのに対し | 文の復権、②ヴォルシェヴィキ党 過言ではない。 ある。 内の任務にとじこめ、それを機構 すなわち、綱領上では、 配局、組織局、国際統制委員会を ②経営細胞=党の基礎組織③、警 は、①第一インターナショナルー 第一インタナショナル一般規約前 ーリン、シノビエフは行ったので | 可能論の絶対化、生産力増大によ 的に決定づけるためにコミンテル 場細胞と規定し左翼反対派を各国 各国の左翼反対派がほぼ繋破さ だが、各国共産党の基礎組織を | 来、スターリン組織観に対してど すなわち、党の基礎組織を経営 第五回大会で改訂された規約は コミンテルン第二回大会(一九 「経営細胞=党の基礎組織」論 ロマル なったのである。 かにする事が課題である。 武装闘争を組織する事は出来ない スターリン組織観を克服すること を批判し、克服するのみならず、 意味した。 | なわち、社会帝国主義への転落を | に対する屈服、第2インターナシ | て中央集権主義の崩壊が決定的と る事によって、プロレタリアート | 界プロレタリア独裁、従って連邦 ロレタリア独裁の総和としての世 である。 という歴史的位置に立っているの の繝領(スタ=ブハ繝領)、戦術 ョナルに対する原則上の妥協、す ルン(スターリン派)の帝国主義 ルンの連合主義、分業主義、従っ けられることによって、コミンテ には、一国革命論、連邦主義と一 | 独裁の窟義を実際上低め、組織的 | 豬階級の部分的要求にまいぼつす 主義の原則をあいまいにした上で | 制、④ | 国における社会主義建設 経営細胞=党の基礎」論が結びつ び社会主義革命に対するマルクス | 従って革命のコース論、③各国プ これら第六回大会は、

コミンテ きりと区別し、 戦術上では、民主主義革命、及 指導部(スターリン主義官僚) 組織に堕落した公認の共産主義 の強化と平和共存政策によって ない新しい社会を建設する事に 従って、今日、われわれは、こ ある。 **支配、階級対立に基づくブルジ** 次の項では、わが問盟が結成以 -の打倒、プロレタリアートの パ六回大会規 同題は、一個の社会主義建設 同盟の目的は、ブルジョアジ 約と「三・ 六規律」 それとの非妥協 る日本共産党の規約を抜すいしよ 期(一九五九年八月)に決定され た規約の抜すいである。 である。党内では、党の政治方 とは、覚を破壊する最悪の行為 関をつくり、分派活動を行うと を実行せず、統一をやみり、派 権主義の 原則を 正しく 統一す は民主主義的中央集権制である 錢社会を実現することにある。 し、それを通じて高度の共産主 次に、上記の同盟規約に該当す これは、共産主義者同盟の創設 を行動の指針とする。 者の、統一された、闘う組織で 働者階級のいろいろな組織の中 自覚的規律で結ばれた共産主義 で最高の階級的組織である。 選出する。 な書記局とその長(書記長)を 働者階級の前衛部隊であり、 製 中央委員会は、事務遂行に必要 細胞、グループに組織される。 **員会、地方委員会、地区委員会** って保持される。 的な主体的自覚にもとづく革命 さを基礎として各同盟員の階級 的な耐論を基礎とし、行動の完 為に、自由な意見交換と非妥協 則に貫かれる日本労働者階級の の勝利の為に闘う。 的な闘争を行い、新しいインタ への献身と自己犠牲の精神にと 金な統一を守って闘う。 新しい真の前術組織である。 としての日本プロレタリア革命 る為に努力し、世界革命の一環 覚は民主主義の原則と中央第 党はマルクス・レーニン主義 党の目的は、日本の労働者時 党は、自発的意志にもとづき □、日本共産党は、日本の労 ーナショナルを全世界に組織す 「また党規律をみだし、決定 細胞は同盟の基本組織であり 第三条、問盟は大会、中央系 日本に社会主義社会を建設 同盟の規律は政治方針の正し **同盟は、その目的を実現する** 同盟は、民主集中制の組織原

(3) 昭和48年3月25日	赤	報	鄭 9 考
	マー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71 7 E 27 37 1 C O 18 1	対や組織原則でそこなうような 行動はゆるされない。」 「第十五条、党の組織は地域 と生産(経営)にもとづいて租 機するのが原則である。 党の組織は、工場、鉱山など の経営及び場所(居住、学校を を被して組織される。基礎機 人上級は都道所集機関、都道所 人級関の上級は、中央機関である。 は、中央機関である。 、基礎として組織される。基礎機 が立なば、中央機関である。 は、中央性の、中央性の、中央性の、中央性の、中央性の、中央性の、中央性の、中央性の
We are a second		い。 は、その「規約」を作るに 彼らは、その「規約」を作るに でいるが、マルクス・エンゲルスが作製した「共産主義 信間規則・ は、マルクス、エンゲルスの にが、マルクス、エンゲルスの は、テ・て位階制組織では なく、ましてや、「基本組織=細 なく、ましてや、「基本組織=細 とする考え方はない。 たが、マルクス、エンゲルスの は、ア・カンが100円 200円 200円 200円 200円 200円 200円 200円	日本共産党党内関争に於て指き流 会家連は、"社会主義革命か成主 会家連は、"社会主義革命が成立 の整に直而するや不可違的に、 の整に直而するや不可違的に、 のをはに向い、組織問題においてもス ターリンの組織観の批判とマルク ターリンの組織観の批判とマルク ターリンの組織観の批判とマルク ターリンの組織観の批判とマルク ターリンの組織観の批判とでルク をいたが、われわれは関係を勝 策にもが、われわれないである。 を取ろうとしたのである。
	を	まで大郎肉、 たまるからとり 日本 本の武装脳争は、頻復的には、 本の武装脳争の大衆薬的への解体 を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、組織的には「経営無胞」党の を、規織的には「経営無胞」党の を発展させる事が出来たなら、 ならが掲げたプロレタリアート独 数のお見近にまで首尾」でして問題 本本組織」を ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが掲げたプロレタリアート独 ならが担実ななら、50	脚争の敗北から教訓や学ぶ以外に は方法はなかったはずである。 だが、横局、との無行、との無行、の にととまっており、そこから、所 解決でなく所態決を全面的に継承 われわれは、ことで、もはや国 解決でなく所態決を全面的に継承 われわれば、ことで、もはや国 をが、も間かり、たこから、所 をが、ものでするる。 にとさまっており、そこから、所 をが、ものである。 をが、ものであると言っているである。 では、とのに、もはや国 をが、をであると言っているである。 にとさまっており、そこから、所 をが、もであると言っているである。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ない。」、(レーニン党を組織せない。」、(レーニン党を組織せない。」、(レーニン党を組織せない。」、「は、われわれの同庭員は、日共党員の様にたた上部の手足となれ、大衆を結集するオルグに他ないの正しさ、即ち、戦略、戦権に導かれた党」が主張されて、「政治指導の正しさ、即ち、戦略、戦権に導かれた党」が主張されているのである。	スターリン組機概に対するそれな かまから 内容的 を基本的にはかりながら、内容的 を基本的にはかりながら、内容的 を基本的にはかりながら、内容的 を基本的にはかりながら、内容的 を基本的にはかりながら、内容的 できない た活動であり、労働者階級と かれた活動であり、労働者階級と された活動であり、労働者階級と された活動であり、労働者階級と おいたを いまり と いまり
	マース・マーネー・ノース・マーネー・スース・マーネー・スース・マーネー・スース・マース・スース・スース・スース・スース・スース・スース・スース・スー		・ 経済関令・民主主義闘争の徹底 化=反常動のかなの強化・反称・大学の 対る為に、上社研・労研・社学向、 対な為に、上社研・労研・社学向、 である。 これ信令指導する機関としての細 が党心を遊組織にすえられたのである。 これ信令指導する機関としての細 が党心を遊組織にすえられたのである。 この様々、経済主義、一同型の である。 と任務」にあらわれている。 と任務」にあらわれている。 と任務」にあらわれている。 と任務」にあらわれている。 と任務」にあらわれている。 とに勝利雅の廃止、世界共軍主義 を開発対策の廃止、世界共軍主義 と階級判策の廃止、世界共軍主義
果、同盟第八回大会に ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、「一、」 ・ 一、「一、」 ・ 一、「一、一、一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	本命一を当然要求、比。そ 本の一と当るとは、大学、前面には大学、 を取ったにと示へル軍団の本 を取ったにといるで、ル軍団の本 を取った。と示へル軍団の本 を取った。と示へル軍団の本 を取った。と示へル軍団の本 を取った。と示へル軍団の本 を取った。といる計画 生み出した機動隊による計画 生み出した機動隊による計画 生み出した機動隊による計画 生み出した機動隊による計画 と変命政策を受けた。それ自 生み出した機動隊による計画 となった。		図 70 円 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
等は、この党内閣争の政治の関係を示した。世界プロレタリア独教を示した。世界プロレタリア独教の性格をめぐる練争がはっきりとが、一共和制が連邦制かとして争りれた。日共、革マル派と同一の立場から日共、革マル派と同一の立場から日共、革マル派と同一の立場から、100年で	タ 内を軍士ととび党会勝事		対して主張されただ。すなわるレーニン党 なのだが 大和制論の核心であった。これに 共和制論の核心であった。これに 共和制論の核心であった。これに 共和制論の核心であった。これに 共和制論の核心であった。これに 大和制治の核心であった。 とは異って写り、 世界学可レタリア独立の検討に 見られる世界プロターを終悟して、世界学一世界未軍の党と、共青=「組織された暴力」党と、共青=「組織された暴力」党と、共青=「組織された暴力」党と、共青=「組織された暴力」党と、共青=「組織された暴力」が表示。
が、赤軍派は、時代的制約をあた (「なにを なすべきか」において党直轄の革 金軍についてふれていない事や、 プレオブラジェンスキーとの論争 においてロシア赤軍が世界金融争について全面的には明らかにしていな が、赤軍派は、レーニンのどきていた時 何も彼の思想的限界ではないのたと言って、 代の制約にすらないのであって、 代の制約にすらないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 でのとあれていない事や、 のとないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 代の制約にするないのであって、 での数のと思わいのであって、 代の制約にするないのであって、 での数のと思わいのであって、 での制約にするないのであって、 での制約にするないのだ。 のであるないのであって、 での制約にするないのであって、 でのまるないのであって、 でのまるないのであって、 でのまるないのであって、 でのまるないのであるないのであって、 でのまるないのであるない。 でのまるないのであるないのであるない。 でのまるないのであるない。 でのまるないのであるない。 でのまるないのであるない。 でのまるないであるないであるない。 でのまるないであるないであるないであるない。 でのまるないのであるないのであるない。 でのまるないであるないのであるないであるないであるないであるないであるないであるないであるないであるない	M. S.		本 なければならないと主張、松本礼 一 大 で なければならないと主張、松本礼 本 なければならないと主張、松本礼 本 な なければならないと主張、松本礼 本 な な な が ま な の 赤 軍 な か ら 目 向世 邦 = 一 国 本 た 、
う団のとしましたまませい	(観す な関レの提段に於想		ストロ島線を全面的に採用したのである。 この上で、ゲバラーカストロ路線を全面的に採用したのである。 しかなな彼らの態度は当然が、ラの様ののである。 すなわち、の、カストロは、7 を必認動の機関での非和解性に対対、彼なの階級対策を持ち、この点から散権力の砂酸製造の非和解性に対対、変が40分間を以近の非和解性に対するが用な理解を持ち、この点から散権力の移動では、7 率になる金融を人民への権力の移力の移りである。 したられる様なスコラ的な徐物を制したのでは、7 であり、赤軍派の「ボ軍Nの4」
		····	か)を主張する事によって、結局 を自から削さしてしまったのであったがである。 「における破産を既に示っていた。 この事について、塩見管が、最 で、「塩見孝也論叢」一号で次の様 に述べているのは正しい。 「考えてみれば、われわれは、 「本社の事について、塩見管が、最 をしたがでありまったのであった。 「本社の事について、塩見管が、最 に述べているのは正しい。 「考えてみれば、われわれは、 いたと言っても過言ではない」(いたと言っても過言ではない」(

を磨除しているか?がここでは服

R G

	_ %	i									ä	報																		į	95	9	7	3 -
H 11 H 1	, X	ー・ナナ						出来よう。	図は、次の一文を読めばよく理解	彼らの体系的非合法党の真の層	べようとはしない。	いては一番も述		して考えられていた、政治局=軍	12・18当時、最も、 重要なものと	力の強化にされてしまっており、	は、ことでは、党総体の軍事的能	ととがわかる。 体系的非合法党と	るべきだと主張するに至っている	重要性とRGが細胞の補完物にな	は述べず、結局基本組織=細胞の	のわれわれの歴史的限界について、	のであるが、彼らは、12・18時点	て以降五ケ月後に発表されている	論文)との論文は、彼らが脱走し	る」(烽火二六八、九号③政治局	うる」として簡略に表現されてい	組織は細胞との関係でのみ存在し	それは12・18論文において「軍事	非合法党建設の結論に到達した。	総体の軍事的能力の強化ー体系的	を通してはじめて、われわれは党	「しかし、血みどろの悪戦哲闘	らかにされなければならない。
	1	の犬々へ	りしょうこ	パカスが成		9 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		ても一人非合法の日和見主義を生	無力に等しい。それはうまくいっ	_		前提とするのである。陸(おか)		帝国主義心臓部においては、党総		のである。」	健全な形で、軍事を組織できない	合法党の建設をもってしか我々は	体の軍事的能力の強化、体系的非	で一つの結論につきあたる。党総	我々は、かかるRGの戦闘史の中	の続出は当然の帰結であった」「	嫌が明確にされない中では脱走兵	体の軍事的系列化とその政治的基	されるのである」「しかし、党全	戦闘に至るまでの待期生活を強制	ラー枚ない生活を強要され、次の	なされた隊員達は、地区からのビ	された。党の基本構造から切りは		後も軍事組織として軍を維持する	RG隊員選は、秋期闘争の敗北の	一九六七年)の中で、生き残った	「しかし、10、11月闘争(注、
	り有別日の	けする戈マの影麦	ルー・ファイ					ても一人非合法の日和見主義を生一走は当然であったと。もう二度と一戦争は結局は敗北するのだとわめ一問題ハ本系的非合法党建役、コナ	因があったのであり、従って、脱				_	まさに彼の本音をはいている。	۷.	えられなかったアピールの筆者は	第一次RGのきびしい軍規に耐	いえよう。	に烽火一派の政治的意図があると	に「アピール」を書かせたところ	あるが、それはさておき、降格者	この「アピール」は、ニセもので	Gからの降格者であり、従って、	のであり、この筆者は、第一次R	走してから六カ月後に書かれたも	この「アピール」は、彼らが脱	団アピール)	のだ!」(烽火二七二号RG被告	統一赤軍と同じ運命がまっている	一われがもし油断すれば、すぐさま	て陸にあげられたのだ!」「われ	である。赤軍派は政治警察によっ	ば今回の浅間蜂起へと昇天するの	み出し、純粋ににつめあげられれ
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				1911 1911 1911 1911			戦争は結局は敗北するのだとわめ	極度におそれ、革命戦争やゲリラ	が出来ない烽火一派は政治警察を		リアートを共産主義的要求によっ	を確信していず、従ってプロレター	プロレタリアートの革命的能力	いつめられてはならない」(同)	ても非合法、非公然領域のみに追	「われわれはどんなことがあっ	かね烽火一派の諸君。	い体系的非合法党とは一体何なの	革命戦争やゲリラ戦争を闘わな	れパクラれるからだというのだ。	警察によって陸(おか)にあげら	帝國主義心臓部では、結局、政治	」は行わないという。なぜなら、	は、「革命戦争」や「ゲリラ戦争	もっとも、この体系的非合法党	けである。	の建設以外にはない!」というわ	事的能力の強化!体系的非合法党	織しようとすれば、「党総体の軍	もついていける様な)で軍事を組	今や、「健全な形」(降格者で	ڪي	軍事組織になど籍はおきたくない
数の立場との間で、 中間派である		的マルクス・レーニン主義復権の	々共産主義者同盟(RG)の革命	もちろん、赤軍派が現在では我		更味しょうことう質可である。		問題ハ本系的非合法党建役、コプー	的として公園際主義、回権力政府	起・臨時革命政府樹立を実践的目	一の解明と、それにもとづく、蜂	務としての『日本革命の戦略問題』	日本プロレタリアートの国際的任	「我々は、全国委員会結成時に	題とも結びついているのである。	けではない。それは、次の様な間	体系的非合法党の意味はそれだ	ある事が明らかになる。	ものであり、軍事反対派の組織で	革命戦争やゲリラ戦争に敵対した	体してしまっている事、第三に、	あるいは、RG自体をもすでに解	(うまくいっても) にしているか	その上でRGを基本組織の補完物	組織観に屈服している事、第二に	点で彼ら自身無窓識にスターリン	基本組織としたものであり、との	系的非合法党とは、第一に細胞を	以上でわれわは、烽火一派の休	っているにすぎないのである。	は、己が身のかくれ家のことを言	が非公然領域の事を口にするときることによって「綱領戦略問題」	法領域にいたいらしく、ただ彼ら	きちらし、是が非でも、公然、合
教条派あるいは消算派と言われる	明らかにしてゆきたい。なぜなら	の分派闘争に対する我々の態度を	君の主張を検討しながら、赤軍派	に「塩見孝也論踐」における塩見		二帝を入り三つの可のコネル 手・		「労動組合が、賃金収録にし	入するのである。	どもない経済主義、組合主義が流	問題を否定したところには、とめ	国際主義の要である国際組織の	上での一国党にすぎないのだ。	国際組織の建設を空想と否足した	係なもの、もっと正確にいえば、	義者の国際組織の建設と全く無関	義務としなければならない共産主	ざすものなら離れでも今日自分の	と世界プロレタリアート独裁をめ	ーリン主義を打倒し共産主義革命	彼らの体系的非合法とは、スタ	しまった。	革命の戦略問題」の解明に低めて	の関連で述べるのではなく「日本	際的任務」を、国際組織の建設と だと。なんと!	てのみ可能である)を放棄し「国	命(それは当然国際的なものとし)	導しなければならない共産主義革	烽火一派は、共産主義者が、指	である」(烽火二七七号)	に接近する事を結集内容としたの		法領域にいたいらしく、ただ彼ら に対する階級政策を明きらかにす 礎的な階級組織である点において P一二一)	ロレタリアートの諸階級、諸階層
機領、組織、戦術的立場の正しさ	者同盟(RG)の現在とっている	してこの総括は必ず我々共産主義。主義におち入っているのである。	括が必ず問われるはずである。そ	次共産主義者同盟の分派関争の総	9年7・6事件を境目とする第二			の七菱ノグェトなどがそれで	軍事組織、国家的組織形態として	文化啓蒙団体、青年同盟、革命的	夏団、党外の婦人団体、出版物、	協同組合、工場内の組織、国会議	ととは出来ない。——労働組合、	は、資本と闘って成功をおさめる。るがいかがだろうか烽火一派の諸	て、これらの組織なしには、彼ら	に多くの組織をもっている。そし	プロレタリアートは、それ以外	階級のただ一つの組織ではない。	部隊である。たが、党は、労働者	た	組織の最高の形態としての党。	級	ているのだ。	スターリンでさえ次の様に言っ		にとっては、基礎的な階級組織」	「労働組合がプロレタリアート	る」(烽火二八〇号P3)	もやはり事態に変りはないのであ	義労働運動指導部であったとして	主義、組合主義、あるいは帝国主	はたとえ指導部が改良主義、経済	礎的な階級組織である点において	てのプロレタリアートにとって基
者同盟(RG)に対する召還主義	明らかにしてゆきたい。なぜなら「著同盟(RG)の現在とっている」塩見君の中間主義は我々共産主義「君がとろうとしている政治態度を	主義におち入っているのである。	ゆる衝算派との間の中間主義調停	っており、いわゆる教条派といわ としている人々に一定の期待と幻	特「9年7・6事件を境目とする第二一撃戦支持の立場を動揺させてしま」その意味では組織に忠実であろう	K	日本の名称は、 対 自身全 の対し	とし、り代表ノグエトなどがそれで、皆及を組織し、百合地各り第二、これりでいることを示してい	軍事組織、国家的組織形態として ならす、共産主義的要求で労働者 争当時の「北摂、西フラクション	文化啓蒙団体、青年同盟、革命的一級の民主主義闘争を指導するのみ一分の同盟内の位置を、昨年分派院	となど出来ないし、又、労働者階	し、職業革命家にきたえ上げると	君) 労働者を党と軍事組織に組織 の作業を猜々とはじめているので	るがいかがたろうか烽火一派の賭	「て、これらの組織なしには、彼ら 場に就職したがっていると見うけ その発展としての12・18路線を否	「烽火」の文章を書いた荖著も工 装闘争の窓義を抹殺し、従って、	就職させることは出来ても(この き、第一次RGが解った恒常的武	彼らには、職業革命家を工場に	いるのである。	がっている事を彼ら自身証明して	合主義者=労働者反対派になりさ	らがまさに、スターリン以下の組	服する事によって、今日では、彼	ターリン組織に結局烽火一派は屈	党の基本組織=経営細胞とするス	落している身の証しにすぎない。	のは、結局自分が、組合主義に転	リアートの階級的基礎組織という	烽火一派が労働組合をプロレタ	も誤っているのだ。	暫々」と言う様な考え方がそもそ	だいたい「菩薩的な階級組織は	P ::::::::::::::::::::::::::::::::::::	」ある」(「レーニン主義の基礎」
機領、組織、戦術的立場の正しさ 者同盟(RG)に対する召還主義 できるだけ詳しく批判することに	君がとろうとしている政治態度を	そうである以上、我々は、塩晃	想を与えている。	としている人々に一定の期待と幻	その意味では組織に忠実であろう。			これのでいることが表してい	争当時の「北摂、西フラクション	分の同盟内の位置を、昨年分派院	これらのことは、烽火一派が自	ある。	の作業を猜々とはじめているので	定し、第二次ブンドへの先祖帰り			き、第一次RGが解った恒常的武	脱走後、十一ケ月たってなげくと「者階級を悪臭魔ぶんたる沼地に引	烽火二七七号P3) と烽火一派が	がっている事を彼ら自身証明して てしまった重要な転換である」 (合主義者=労働者反対派になりさ してひからびた抽象性へと変質し 革命戦争やゲリラ戦争に敵対した	らがまさに、スターリン以下の組 繰は、帝軍解体、恒武闘争論! と の拡大のダシとしてRGを利用し	服する事によって、今日では、彼 瑞々しい政治内容は『軍事外交路 ン組織に屈服した上で、基本組織	ターリン組織に結局烽火一派は屈していわれた、その意味では確認で	党の基本組織=経営細胞とするス 義的、全社会的、国家再編」とし	して体系づけたところの「帝国主」そして、この「健全な形での軍事	のは、結局自分が、組合主義に転 て中央権力闘争、マッセンストと 」しようとしているにすぎない。	リアートの階級的基礎組織という ドが、六九年安保決戦段階におい				れた	てい出来ない相談であろう。	てのプロレクリアートにとって塞 ある] (「レーニン主護の基礎」 その大軍を進軍させる事などとう る(分派闘争のより詳しい総括は
三、党の軍人化、軍の中の党化	蛙起ヘノ	二、遊撃戦を貫徹し、全人民総	11月4日	命銭針券刊!	一、世界共産主義建役、世界革				(SO # / #)	(欠号へ売く)					しいものであろう。	プの理論的指導者の位置がふさわ	き込もうとしている8・25グルー	者階級を悪臭腐ぶんたる沼地に引	烽火一派には、せいぜい、労働	ものであるにすぎない。	革命戦争やゲリラ戦争に敵対した	の拡大のダシとしてRGを利用し	ン組織に屈服した上で、基本組織	=党の基本組織といったスターリ	の組織」化とは、実は、経営細胞	そして、この「健全な形での軍事	」しようとしているにすぎない。	一派は、「健全な形で軍事を組織	を進めたのに対して、今日の烽火		崖	ただ、当時の北摂地区委員会が	別稿)。	る(分派闘争のより詳しい総括は

塩 見 孝 也 論 叢 の 批

赤

A 次~

肉塩見君の資本主義批判 三7・6事件の総括―我々と赤軍派との分岐点 口塩見君の連合赤軍に対する態度 一はじめに (下) —次号掲載予定 (上) 一本号掲載 「前衛の軍人化」「軍の中の党ー人の要素」「共 組織総括における關停主義 塩見君の連合赤郷に対する態度 塩見君の自己批判 産主義化」について

4 3 @ 1

は じ め 17

いて指摘しておいたように、我々

るものである(商原君など)。 再び統一赤頭結成を目指そうとす 君=連合赤軍指導部に押しつけ、 組織的には日共革命左派に屈服し の党的敗北の政治責任を森、永田 線の具体的総括を回避し連合赤軍 て赤軍派結成以来の政治・組織路 する傾向であり、そのことによっ の乗り移りによって総括しようと 合赤軍の党的敗北を毛沢東主義へ は教条派と呼ばれる傾向であり、 第一の傾向は、赤軍派の内部で

すでに我々が『赤報』8号にお | 命左派神奈川県委員会とを両極と | 思想を唱える東京都委員会グルー | する革命戦争派の再編の中で、共 | プから、我々の資本主義批判を含 は淸算派と呼ばれる傾向であり、 マルクス・レーニン主義・毛沢東 第二の傾向は、赤軍派の内部で

「さかのぼって新たな「立脚点」を「

きく分けて三つの傾向にわかれた.] 革命戦線関西地方委員会に至るま 判 争としてあるわけではなく、三つ 分解は必ずしも判然とした分派闘

共産主義者同盟(RG)と日共革一産主義者同盟赤軍派の諸君は、大一葉の上だけ密輸入した八木君及び 革命戦争路線を強闘しつつも、連|う点で意志一致し、民主主義闘争 赤軍派結成以来の政治組織路線に 総括に求め、資本主義批判の獲得 北の総括を「小ブル革命主義」の 路線を擁護し、連合赤軍の党的敗 派の両者を批判しつつ、革命戦争 あって、いわゆる教条派及び清算 也論

の

に

おける

塩

見

君

の
立
場

で | を見い出そうとする傾向である。 |25共闘なる連合戦線に政治的展望 一組織的には解覚主義に転落し8。 総括しようとすることによって、 軍派の政治・組織路線を溶算的に を美化する観点からのみ従来の赤 | 結局のところ革命戦争路線の否定 | として、この総括を行おうとし、 - 清算、民主主義闘争の美化とい で、思想的には統一されていす、 第三の傾向は、最近の「塩見孝 るのである。 拡大に近い状態がもたらされてい 派の分派闘争というよりは分解の きないという結果をもたらしてい | 復古主義的に強耦することによっ 従来のそのままの赤軍派の路線を るのであり、ここから現在の赤軍 ては連合赤軍の党的敗北を総括で 一では逆に赤軍派のどの分派であれ の殆んどの人々は連合赤軍結成を 共革命左派とは対照的に、赤軍派 よって行われたことによって、日 | るように、赤軍派のヘゲモニーに の傾向は相互に影響しあい、補完 いわゆる六つの旗(注)に見られ 義化」論を軸に、「銃火」一号の 関係にある。しかも、連合赤軍結

| 支持し美化した。このことは現在 | 努力しているからである。これは さて、我々はここでは先に上げ ーあり、 組織、戦術的立場にまでさかのほ 一の総括は赤軍派結成以来の綱領、 合しよう」とする立場であること 立場はいつも赤草派の混乱を「統 一の党的敗北であるとすればこの真 | に規定されている。 だが、連合赤 | 彼が赤軍派の創始者であり、彼の 軍の党的敗北が、何よりも赤軍派 をとらえようとして、それなりに いては後述)連合赤軍の到達地平 って行われなければならないので 赤軍派にとっては、196一る。その結果、彼は従来の彼の統一連合赤軍の銃繋戦の後に、「今回一ていますが、主要な矛盾は「罰状」 くゆくかの如く論じているのであしならない。なぜなら、塩見君は、 学を「認識」すれば、全てはうま |の杖の如く形而上学的にとりあつ 」) として、資本主義批判を魔法 | 共産主義化」論の右震版(という ないことによって、連合赤軍の一 | 織問題として総括しようとしてい かい、この資本主義批判の形而上 | よりも、革マル派の「自覚の論理 ギー的にのみ総括しようとし、組 塩見君は、瀬消問題をイデオロ

成がイデオロギー的には「共産主 ┃問題について」や「同盟の第三次 ┃ り、その結果、我々共産主義者同 | ことによって、現在の赤軍派の三 | 両分派はいずれも連合赤軍の党的 | を明らかにせさるをえない。とこ | 呼ばわりにもあらわれているが、 ┃括しようとする態度を欠落させて ┃まいにしており、何よりも、組織 転換……」における連合赤軍指導 | 盟(RG)の資本主義批判やスタ | 敗北を組織として責任を持って総 | ろが塩見君はこの点で憩度をあい を作りあげてしまっている。 めて混合したような資本主義批判 まま、資本主義批判の重要性を語 問題に対する態度を不明確にした 一の宇野経済学批判などを寄せ樂 ーリン主義経済学あるいは県田寛 軍派でありつづけようとしている。ガンである。 | ひどいと思い、そしてなおかつ赤 | たものであり、 義は、教条派の如く日共革命左派 の創始者であり、塩見君の中間主 総括することはできない。そして 君は決して連合赤軍の党的敗北を このような態度によっては、塩見 派の合法主義への転落は余りにも へ乗りうつる決断もつかず、清算 にもかかわらず、塩見君は赤軍派

日、連合赤軍結成の際、確認され 六つの旗とは、1971年7月15 (注) 「銃火」1号のいわゆる 次の六つのスロー

一批判し(だが、まがりなりにもと 部に対する責任の押しつけを自己

しか含えないものがあることにつ

まがりなりにもかっての「今回の いるのに対して、塩見君の場合は

| 分岐点を詳しく明らかにしたいと | 7・6 事件以降の我々と赤軍派の 党派性を鮮明にし、なかんすく、 る現在の党派闘争における我々の よって、革命戦争派の再編をめぐ 思うのである。

六、自力更生の下、国際的革命 民の権力へ! 人民と固く結合し、世界道 大強化しよう! をかちとり、「赤窠」を拡

塩 見 す る 君 態 の 度 連 合 赤 軍 17

 $\frac{1}{2}$

対

自己批 の問題について」において、次の 問題も、現在の攻防の要因になっ 様に述べていたからである。 「路線方針問題や、この他の諸 判

いて述べることから始めなくては 連合赤軍に対する態度の変転につ

さて、何よりもます、塩見君の

1

塩 見

君 Ø

四、軍の正規軍化、共産主義化 しよう! をかちとり、革命党を建設 元の軍人化、軍の中の党化

蜂起—戦争統—戦線を全人

命戦争に勝利しよう!

あるということです。」 |で普遍的な問題として登場しつつ らも一として存在し、徐々に主要 |の主要な矛盾には介されて、副次 的な問題―普遍的問題でありなが 主義」に根本が六〇、諸問題はこ のあり方とそのブルジョア的厳罰

斯 9 考·	赤	報	昭和48年3月25日 (6)
はなく 「フルショッ神の放射計画 はなく 「フルショッ神の放射計画 かける人達主義形を入っている。 の配服の特果であるとと」 「『反映 反大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	まなにての。ことは、 ・まなにての。ことは、 ・ないであるとして、路線に出判し、 ・ないであるとして、路線に出判しているのがはいであるとして、路線につけては個次的だとしているが、 がなっている。その結果、 ・赤塚の内部燐溶問題を、 ・の政治路線、組織路線の ・の政治路線、組織路線の ・との・とのに、 ・		「我々は、ブルショア的厳助主 をはっきり自己批判し、徹底し とって、我々自身、ブルショア的厳助体 をものに必質し、ブルショア的 をものに必質し、ブルス民から見 能される敬目に立たされている」 「この根本的な関し、ブルス民から見 離される敬目に立たされている」 「この根本的な関し、ブロレタリア人民が死し無関系な、プロレタリア人民が死し無関系な、プロレタリア人民がら見 離される敬目に立たされている」 「この根本的な関し、プロ人民から見 離される敬目に立たされている」 「この根本的な関し、プロ人民から見 をものに必質し、プロ人民から見 をものに必質し、プロ人民から見 をものに必質し、ブロンタリア 、ア人民が死し無関系な、プロレタリア 、ア人民が死し無関系な、プロレタリア
について、「問題の第三次転換・・・・・」」を、塩臭売の指導子で、「一一で、「一一で、「一一で、「一一で、「一一で、「一」で、「一」で、「一」	まとしてする。 ところがことで我々が発見する とこれがことで我々が発見する のは、混乱である。 「動変」一号と2号の内容がま の情に対して、2号では、なしとして、順荷さけた人々の立場に ことし、順荷された人々の立場に ったなければならないとしている のに対して、2号では、むしろ連 のとして呼ばっていること。 「こと」、「こと」、「こと」、「	「同盟の第三次転換」に対したは赤東水原部でも多くの近半が、 あったこと、塩見君が記書しばじかこうの かったこと、塩見君が正のにていた。 なでは見君が発音しばじかこうの が埋見君が発音しばじかこうの が変の機能で、我々もうわさ に聞いていた。数ケ月の沈黙の後 が変のの数単していて、境見君が ということは外機味しないはずで あり、我々はまず、塩見君の必能 ということは外機味しないはずで あり、我々はまず、塩見君の必 をかずしたができた ということは外機をいるないはずで あり、我々はまず、塩見君の必 をがすることができた ということはりが をがすることができた ということはりが をがするがよりでもた。	は内部単純のは知らないが、「今回のかどうかは知らないが、「今回のかどうかは知らないが、「今回のかどうかは知らないが、「今回のかどうかは知らないが、「今回のかどうかは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかどうがは知らないが、「今回のかど」
をして思めたべる。として思めたな。として思めたが、まない。 さす、赤草灰の皮体は、このような塩鬼君の豚皮にも現われているのだが、我々が真剣な党派 服勢を継続して、革命戦争派の 体質な警域といっていく前機を 獲得するためにも、独回要求を 獲得するためにも、独回要求を 後有いるのだが、我々が真剣な党派 にいて、 一位のは「全回の問題について」 一回盟の第三三年境。 一位の大路としては塩見君が とにかく我々としては塩見君が	などは輸外であり、乗りざるやえない。そして2号における関係とおける関係とは、塩鬼素が附近の組織に対する同の批判を行うとなく、としなく対々を、RG 回り、としたく対々の発展を対して、1000世別を行うとなく、としたく対々を、RG としたなく、おしたと、1000世別を対して、1000世別を対して、1000世別を行うとなく、1000世別を行うという。	いところか、く号のところごとう では一分を参照せなよされている のだから全わけがわからない。 とのようなやり方は、塩鬼君個人 としての責任を持った政治態度の としての責任を持った政治態度の としての責任を持った政治態度の としての責任を持った政治態度の としての責任を持った政治態度の として教々はこの紙上において本 はり撤回を要求しておきたい。 一号における格火一派と一幕 くここしにメンシンエジイキ 見と は、こしにメンシンエジイキ 見と	は一号の総括は金く行われていなは一号の総括は金く行われているととなどなどであった。ととろが2号であった。
は、 日本 1世子で、2000年の機大の企大学企業であった。 一 その機械に登りつめ、分解し、そのハブル性を一挙に反対的なものに転化して行ったこと 「(担子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17月2 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日におります。 1月3日に、 1月	場合がいるばかりで、事変上の分派 関合が添行していたのである。このような組織の状態において、自のような組織の状態において、自のような「新しい観度」を打ち出している。すなわち、「無嚢とな骨第二章すなわち、「無嚢とな骨第二章すなわち、「重要なことは「共産主義化」「「重要なことは「共産主義化」「「重要なことは「共産主義化」「「重要なことは「共産主義化」「「重要なことは「共産主義化」	一前衛の軍人化」の強機時における 下面戦争監禁化」動に直接の原因を持 共産主義化」動に直接の原因を持 共産主義化」動に直接の原因を持 共産主義化」動に直接の原因を持 共産主義化」動に直接の原因を持 共産主義化」動に直接の原因を持 大道旅指導部としての自らの略線 大道旅指導部としての自らの略線 大道旅指導部としての自らの略線 大道旅程等を心力できる。だが の指導部」などどこにも存在しな かったのであり、獄外の赤草派に は地方委員会。を各準っか であり、獄外の赤草派に は地方委員会。を各地のかったのであり、 などとこにも存在しな かったのであり、獄外の赤草派に は地方委員会。を各地のから であり、江が のおり、江が のおり、江が のおり、江が のおり、江が のおり、 などといるできる。だが のおり、 などといるできる。だが のおり、 などといるといるできる。 であり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 などといるできる。 であり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 などといるできる。 であり、 ながのであり、 ながのが ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのからは ながのであり、 ながのからは ながのであり、 ながのからは ながのであり、 ながのであり、 ながのであり、 ながのがのがのが、 ながのがのがのが、 ながのがのがのが、 ながのがのがのがのがのがのが、 ながのがのがのがのがのがのが、 ながのがのがのがのがのがのが、 ながのがのがのがのがのがのが、 ながのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがのがの
は、	は、 になって、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	を 合 赤 軍 に 連 合 赤 軍 に 連 合 赤 軍 に 連 合 赤 軍 に 中 ないても充分に総括できていない 本 の できる できないない できる	5の心分一除名を提案することは、 にはのサークル模性、あるいはただけのサークル模性、あるいはたに増見者が消耗しているという心焼き自にすきない。「論業」2号に相対る板の思慮」と連示問題を一として終括しようという主張・との方は塩鬼君の前漢であるとだけ我々は言っておどう。 問題なのは塩鬼君の市漢であるとだけ我々は言っておどう。
す的な歯るよれに 彼のも 。 答言	「(C)銭阳山荘の総繁観は小 「(C)銭阳山荘の総繁観は小 して支持しえなことと(味)を殺 した兵士によって流われ、又正し と自己批判してないこと等に於て 「前撃を与えた等の軍事上の意義の に、敵と観い、味方を団結させる た。敵と観い、味方を団結させる た。敵と観い、味方を団結させる た。敵と観い、味方を団結させる た。敵と観い、味方を団結させる たたって行う革命的暴力か否かの選択を というなが、はがした。	という境見野の倫理をそのまま進めれば、連合宗軍の関い、その内部がも、延の東京の場合という場別等の場合という場別等の場合である。我々はこのような論理の進め方には反対だが、少くとも填見者の「井証法」が、少くとも填見者の「井証法」が、少くとも填見者の「井証法」が、少くとも填見者の「井証法」が、少くとも填見者の「井証法」が、少くとも填見者の「井証法」が、少くともは見るである。我々はこって「プロレクラフ革命主義」について勝らなければならない。ととうが、彼はこうで削添してしまっているのである。	図学に対する原利に限らした場合 の限界と到選点を明らかにしなければならない。 そして、その場合、何よりも間 なのは、塩泉君が、一角はりも間 なのは、塩泉君が、一角はりも間 なのは、塩泉君が、一角はりも間 なのは、塩泉君が、一角はおりも間 なのは、塩泉君が、一角はおりも間 なのは、塩泉君が、一角はおりも間 で、その場合、何よりも間 なのは、塩泉君が、一間を としてある。革命図舎の発展が小 フル革命主義を不可避の一行程と して持たざるをえず、この徹底化 と自己会定を通してのみ切めてプ レータリア革命主義が樹立できる ロレタリア革命主義が樹立できる
	マス 電池 いっぱ かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	にかく、塩児塩は 1 輪腰」 1 号で に、	る典証法的規定の弱さく、機械的 については 本の については 不可能が の を で し っ の 反 省の行きすぎた展 間があると考えます)については 平 は 同志の を 更 が し で は で い か と で い で は で い か と で い で は で い か と で い で い で い か と で い で い で い か と で い で い で い か と で い で い で い か と で い か と で い か と で い で い で い か と 思 わ さ る で え な い か と 思 わ さ る で え な い か と 思 い す で い か と 思 わ さ る で え な い か と 思 わ さ る で え な い か と 思 わ さ る で え な い か 、 と い か 、 と い か 、 と い か 、 と い か 、 と い か 、 と と い か 、 と と い か 、 と な い か と 思 わ さ で な い か 、 と と と い か 、 と と い か 、 と と い か 、 と と い か 、 と と い か で は か か と と い か 、 と と い か 、 と と い か 、 と と い か で と い か で と と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と と い か で と と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と い か で と と い か で と と い か で と と い か で と い か で と と い か で と と い か で と か で と い か で と と い か で と と い か で と と い か で と い か で と と い か で と と い
	(3) 組 株 給 括 に お :	東南中の党、人の要素として、 いわゆる党内共産主義後、 一表を の下に革命戦争路線を進み、連合 の下に革命戦争路線を進み、連合 が収益成に至ったこと。 ②連合派 「東京大学家にはこの略線 でしたっては第二次赤家族にこの略線 でしたっては第二次赤家族の「前衛 「東京大学家にはこの略線 「共産主機化」論にもとすく革 「共産主機化」論にもとすく革 に、③されらのととは余りにも明 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家結成に互対して、日 は、連合派家は、日本は、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一	が、連合赤軍程成役は刺清を境に として、とにかく連合赤軍は「成 長の病」だったとして、その絶話 長の病」だったとして、その絶話 長の病」だったとして、その絶話 日で認めている如く、赤軍派においては、1969年、前股府種もまた誤 いて成ら、①塩見君も「前輩」1号 で認めている如く、赤軍派においては、1969年、前股府種もまた誤 が、お婚的には「前衛の軍の、な 経統による革命戦争再経験の敗北の 終、以降の連続蜂起路経験の敗北の 経統による革命戦争再経験の取北の 経統による革命戦争再経験の取北の にない、知識のには「前衛の軍人化」
	(5) 組 株 紀 に お け る	本語化・調をも、アスターリン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学批判とスタ・リン主義のの経済学出刊と、大きに素が問題に対して、革命戦争を組織するととができず、人として終結することができず、人として終結することができず、人としても対策に終り、銃撃戦を対し、スターの対策に終り、銃撃戦を対し、スターリン主義の基準がある。このとの対策とは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	このように塚見野は、連合宗軍 このように塚見野は、連合宗軍 でが、イデオロギー的にのみ終語して終れば、彼が「共産主義化」は、後述が、大道が、関連の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の様々の
取る。以上、正しく自己止損されない限り、消算主義に転落していき、またアと論争することは、単純に過去的格が独立を対することは、当地について、の数条的格様を支持することになっているのが表の情報を支持でる。この路線問題でマルクス主義的=科学的、問題のマルクス主義的=科学的、問題のマルクス主義的=科学的、問題のマルクス主義的=科学的、問題のマルクスとをもつで過去の小ブル革命主義の路線問題をを取扱しての代方向こそが要求されていたのです。(ことに組織とれていたのです。(ことに組織とれていたのです。(ことに組織と	対立を止動してゆくには、人が旧来の路線を教条的に国持し、他方来の路線を教条的に国持し、他方本の人に反発しつつで博的に対応して、理論的、歴史的に総括したって、理論的、歴史的に総括したって、理論的、歴史的に総括したって、理論的、歴史的に総括したのです。「何故ならば、人と論争する以入、に解決の方向を持たないのです。「何故ならば、人と論争するととは、本と、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で、「中で	る」ものだったのたそうた。ととろが、第二次が事派においては入ろが、第二次が事派においては入と、FのAへの結集とその更なると、FのAへの結集とその更なる。 スート は馬、A、Pは解散を指令した。 アロスの「反乱的傾向」に対してが局。 A、Pは解散を指令した。 下(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(革命散録)と A、「中央事)、F(東帝敬義)と A、「中央事)、F(東帝敬義)と A、「中央第)、F(東帝敬義)と A、「中本のだったのだった。	

ないでも、とこまでの引用で、彼

塩見君の「若干の説明」をまた

的に保持する為に「共産主務化」 るととに失敗し、中央軍の「銃に の幾何級数的力によって」解決す 央軍(A)及び、革命戦線(F) の組織総括は良く理解できる。第 ある。そして、思想、糲領問題(| 座であることについて全く無自覚 によって破産したのだというので =「勝清」を展開」していくこと 散命令を出し、「党の権威を官僚 に屈服して、革命戦線に対して解|騒が重要だったこと、党内論争を よるセン滅戦ー新党建設」の路線 解答し、「覚-A-Fの三位』体 二次赤軍派の指導部(P)は、中 との党内論争を思想・纐锧問題に 織論への依拠による分権主義の破 | 軍派の党的敗北が、マリゲーラ組 いるこの総括はM作戦における赤

| 何も言っていない。思想、綱領問 |きであったが、第二次赤軍派指導| | 争鳴の党内輪争の組織化を行うべ | は後述) の解決から戦術、組織問 継続すべきだったことのみ語って | きだったのかについて、塩見君は では、どういう党組織を建設すべ に失敗したのだというのである。 | 部は、困難な課題に解答すること |も過去で困難な課題であり、 百花 題へと進んでゆくことは、余りに っているのである。

の主張は思想的には見るべきもの | <(注)教条派と莒われる燕原君 | ているゆえんである。更に高原君 | 対立に対する關停主義の立場に立 | 実践的であり、革命戦争路線の強 のところ、中央軍と革命戦線との | 雪っているだけで、マリゲーラ組 | 総括にはならないのである。塩見 | し、更に「軍の中の党」路線を批 共産主義化」の路線を進んだので「をめぐって対立があったととを明 銃によるセン滅戦ー新党結成」「|命戦線(合法大衆組織)との関係 がなく、余りにも図式的だが、連 織輪の破産に無自覚なまま、結局 | て組織問題の絵括であるとしてい 派の延長上のものだから駄目だと | るべきだと主張していること、 君は中央軍一元主義は従来の赤軍一判し、党組織を軍事組織として作 あり、この組織と戦術と思想とを 一つのものとして総括しない限り 連合赤軍問題の総括は、まずもっ の立て方を決意主義 として批判 ることは、少くとも塩見君よりは らかに し、 「整風」という問題

彼は賢本王懿哉判を思想問題とし「である。M作戦を総括して連合が「戦線を解散、再編することで忽志」がプロレタリア独奪の精神でみた「太王義批判を理解できなかったか「リン王義強組織の残シをひきずっ」架「革命戦線を解して | 合赤軍が党=ゲリラの側から革命 | ことも正しいが、問題は、党組織 にすり変えていると批判している は塡見君を、組織問題を縄領問題 調と共に、高原者が教条派とされ

縄領=戦略としている。この批判 | 軍内赤軍派は、中央軍一元主義「 | 統一する中で、党= ゲリ ラと革 | されなければならないという問題 | ら駄目だったのだという総括にな | プロレタリートの内的矛盾の自己 社会主義革命をめざす党である。 沢東主義に屈服した、民主主義= 一展開の手段としての党であり、毛 り、更に高原君の党が藤本進治的 にとりあつかっているとてろにあ 軍事経済」として軍事共産主義的 を、高原君が「革命戦争の軍政ー 更に主親主義的歴史哲学。>

| を定めているがゆえに、彼の「路 | 戦線との中間に自らの組織的位置 | 遊が「正しく自己止揚」 すべきだ 線問題」「思想、綱領問題」の提 |ったと苦いながら、 中央軍と革命 塩見君は、中央軍の主張を森君

| 起は、要は中央軍も革命戦線も賢 | 経営細胞を基本組織とするスター

| まっているのである。 |の人々に脱教することになってし | 獲得を、彼を除く赤軍派のすべて この歪めら れた資本主義批判の され、「価値観=方法」とされ、 |の原則的部分でなく、思想問題と |ってしまい、資本主義批判は網領

| た組織の系列であり、

一古い大衆運動を指導してきた組織 関論文の言葉で含えば、「従来の 系列は、「構造」70年12月号の花 RG)が正しく含い直すならば、 ―地区委―革命戦線という組織の に中央人民組織委―地方委―地区

回大会規約にもとずいたスターリ 拠して別党コースを歩んだとき、 釈したゲバラ=カストロ路線に依 党の革命を放棄し、ドブレ流に解 - 6 事件以降、第二次共産主義者 赤軍派が7

ン主義党の残シを批判することが

央人民組織委=CPO) -地方委

赤軍派の党組織において、(中

=CAO) -中央軍という組織の それに対して、(中央軍事組織委 できずに形だけそのまま受けつい

第二次共産主義者同盟における六 | その分権主義への敗北、更に連合

|になれ」と言い、党=中央軍の下 | の赤軍派の「軍から党」というド

| 系列が並存 して いたこと に対し | 中央軍と革命戦線との中間に立と だところの組織の系列であった。 | を純化していったのである。 たか の兵站化を批判したり、塩見君が

|張し、「一蠳りのゲリラから始め 命戦線の解散とその兵站化の試み る」ことを主張したのであった。 ち、教条派の高原君が、革命戦線 けるマリゲーラ組織論への依拠と 純化として典型的なものであり、 として、「軍から党」の組織路線 赤軍結成と、中央軍一元主義、革 実際以降の赤軍派は、M作戦にお

| 」であり、我々共産主義者問題(| て、かって花園君は「中央軍は党 | うとしたりするのは、彼等が従来 | のである。塩見君は連合赤耶結成 同盟における党内闘争の組織化と | この花園君の主張はドブレ路練の | 事件の自己批判に至らざるをえな 右から批判することになっている 赤軍と同じ土俵の上で連合赤軍を 彼等の試みは、以前として、連合 一器せざるをえないはずである。)

想、政治局=軍事委員会、RG= 正しさ――中央鎮権主義の組織思 主義の党組織観を継承しながら革 政治原隊、全国政治新聞――を承 産主義者同盟(RG)の党組織の 命戦争を遂行しようとする我々共 |いのであり、マルクス・レーニン| 線を総括しようとすれば、7・6 | 彼等が真に「頭から発」の組織路 | のであり、中央軍一元主義を防ぐ 問題は中央軍一元主義、更に新党 もなく解体していたに違いない。 道にとって巨大な教訓を残すこと ければ、赤軍派は、その内部財務 い。もし中央軍一元主義をとらな くらすととをやめなくてはならな べきだったのかについて、思いめ ためにどのような組織改組を行う 結成へと歩む中において、第二次 と銃撃戦によって、革命戦争の前

一とにあるのである。 (次号へ続く)

ブレ流の組織路線を真剣に総括し

(t) (t)

一の必然的帰結として承認すべきな

進んだことを、赤軍派の組織路線

から新党結成へと第二次赤軍派が

問題につきあたっていったのかを 一の党ー人の要素」「共産主義化」

分析し、そこからドン欲に学ぶと 及び革命戦争路線が、どのような 赤軍派の「前衛の軍人化、軍の中

日本共 反日共諸派 党の の戦術の批判

術、組織を体現した党建設に進ん ルクス・レーニン主義の綱領、戦 しつつも、いまだ爽に革命的なマ | とをはっきりと示している。

ê

共革命左派神奈川県委員会は、五

一年編領の復権にとどまっている

き、反対派を一掃して肥大した彼

に対する宮本・上田の原罪をあば

でおらず、宮本・上田・不破ライ

とはいえ、組織問題においては一

ことができたのである。

ンの社会帝国主義、議会主義、反|歩進んでおり彼らは疑いもなく出

発点に立っている。)

この十数年、日本共産党は、国

りわけ民主連合政府論をとりあげ

であることを明らかにすることに われが進んでいる道が、唯一の道 を示し、そのことによって、われ いが、結局は、宮本・上田・不破 ると共に、他方、反日共諸派の闘

ここで、日本共産党の戦術、と

会の職事運営のパスポートを手に「るのもこの社会帝国主義者の役割

第一章

日 政

産 の

党 出

民

主

連 合

府 本

論

く、プロレタリアートの独裁を、純粋民主主義の見地から 解釈するものでしかないことを証明してきた。 修正」についてふれ、それが、単なる学問上の修正ではな われわれは、第七号で、日本共産党の綱領の「学問上の

六金協にその出発点をもっていること、そして六金協以来 闘争の総括を、分派闘争の強殊と武装闘争の清算を行った 民主主義者の思想へと転向したことが、五〇年分裂と武装 今回は、日本共産党の戦術についてふれ、彼らが、純粋

長したかについて述べておいた。 の日本共産党の戦術が、どのように、社会帝国主義へと成

具体的な暴露と闘争に役立ちうると確信している。 れらの思想闘争の成果を武器として、社会帝国主義者との 闘争として書かれている故に、適当なものではないが、こ その形式上、マルクス・レーニン主義の原則をめぐる思想 これらは、今日の社会帝国主義者との党派闘争としては

は تا め (=

となった。 得し、国会の職選に参加すること 議員選挙において、四十職席を獲 五〇年代初頭の武装闘争を清算 日本共運党は、昨年12月衆議院

第一章 日本共産党民主連合政府論の出生の秘密

(上) |本号掲載

目

を咲かせる事になったのである。 衆的前衛党」の建設は、ことに花 年の年月をかけて、数十万の一大 した六全協と七回大会以来、十数 この十数年間が、宮本・上田・

第二章 民族民主統一戦線の革新統一戦線への解消―民

主連合政府樹立への純化

④民族民主革命か社会主義革命か ③五一年綱領の右翼的手直しとしての八回大会綱領 ②五〇年間題に対する態度は今日でも試金石である ①現績領には民主連合政府樹立は述べられていない

(下) —次号掲載予定

分離及び革命的マルクス・レーニ 的なマルクス・レーニン主義者の は同時に、日本共産党からの革命 不破にとっては、当初の目的の途 行であったとすれば、他方、それ

の定権の歴史でなければならなか

日本共産党の宮本・上田・不破

諸派は、一定の社会的勢力に成長

⑤十一回大会以降、民族民主統一戦線の後退と現綱領の ④十一回大会、革命の平和移行を定式化 ③十回大会、宮本一派体制の実現 ②九回大会における民主連合政府論の手頂し ①八回大会民主連合政府輪の起源

改定へ

一ずくっている。 からの背教者として自らをかたち ならないマルクス・レーニン主義 力を上げて闘争し打倒しなければ わず「純化」し、労働者階級が全 社会帝国主義としてなりふりかま 立ちあらわれた。彼らは、いまや の前に「巨大な」反面教師として

あるいは分離し、あるいは追われ 共産主義者が、日本共産党から、 の旗をかかげ、おびたたしい数の 来、革命的なマルクス・レーニン てきたのであるが、これら反日共 これに対して、 五五年六全協以

たてることによって、労働者階級 ざり、議会主義の空文句をならべ | マルクス・レーニンの言葉で着か ことによって、そのみにくい姿を ラインは、当初の目的を選成する

た社会帝國主義省宮本・上田・不 一によってのみ、今日巨大に肥満し 勝が持続している今日、五一年編 ことが明らかになりつつあるので 一破ラインの打倒もまた可能である のであり、ここから出発すること おくことが可能になってきている | 感派の編領、組織、戦術を根本的 領の下に結集して闘った当時の所 ある。 に凌駕した地点に党建設の基礎を 六九年共産主義者同盟の分派闘

依然として軍事組織を堅持し、遊 | 体、そして連合赤軍の敗北以降も 会)の党建設の前進は、この出発 及び日共 (革命左派神奈川県委員 盤戦戦術を準備しているわれわれ をめぐっての大論争と大選乱、解 共諸派に波及した軍事組織の強股 争に端を発し、革マルを除く反日 闘争の水準を超えた階級闘争の最 あった。したがって五〇年代武装 主義にまで「純化」してきたので 立場を、出生の秘密としており、 代武装闘争に対する日和見主義的 発生的な分派にとどまっている。 革命への「純化」に反対する自然 この軍事反対派の立場が社会帝国 本・上田・不破ラインは、五〇年 き去ったわけではない。今日の宮 たが、この十数年間は無駄にす

る「民主連合政府の樹立」の背景 ある。したがって、われわれは、 は、いうまでもなく、六一年八回 唯一最大の戦術として提起してい 府について述べられているのみで れておらず、民族民主統一戦線政 大会において決定された、日本共 綱領決定以降の大会の諸決職のな 産党綱領にある。だが、綱領には

は、五つの節に分けられており、 | 容) に重点がおかれている。それ | 定(政治路線ないしは破略戦術、 あるいは展望ともいわれている内 にすることが必要である。 日本共産党の綱領は、戦術の確

1 樹立は述べられていない 現綱領には民主連合政府

よって、この戦術の内実を明らか の決定過程を分析し、そのことに かから、民主連合政府樹立の戦術 民主連合政府樹立の戦術は述べら一術」の扱づけが試みられている。 今日、日本共産党が七〇年代の] 述べられている。この部分の内容 一うことになろう。最後に、第五節 | 来の分類からいえば、第三節が、 第二節では当面する日本革命の戦 降で展開されている「戦略」「戦 第二次世界帝国主義戦争以降の階 たぐいのものである。第二節には は、本来綱領に入れなくともよい 一では、将来の社会主義、共産主義 | 術が定式化され、第四節では、統 級闘争の歴史がのべられ、次節以 社会について簡単にふれられてい 「戦略」、第四節が「戦術」とい 一戦線政策が述べられている。旧

一点からしか問題がはじまらないと一第一節には、日本共産党の歴史が 一とである。次にわれわれは、 匹節が日本共産党綱領の中心をなっきりひらくことが出来る。 各館の分景からみても、二、三、一する革命をつうじてこそ、確実に していることは一見して知れるこ この節の構成からみても、また 日本

の徹底的な民主主義的変革を選成

当面する党の中心任務は………

生 の なかに、後の民主連合政府樹立の 共産党綱領の戦術を分析し、その 戦術が導かれる要素をさぐること にしよう。

として、現在、日本の当面する革 శ్ 略)が次のように定式化されてい 面する革命の性格とその戦術(戦 まず、第三節管頭で、日本の当 「以上の全体からでてくる軽望

し、真の独立と政治・経済・社会 反民族的な反人民的な支配を打破 本の独占資本を中心とする勢力の しているアメリカ帝国主義と、日 社会主義への道は、この道をとさしなっているのは、次の第四節の部 民の民主主義革命である。 するあたらしい民主主義革命、人 占資本の支配――二つの敵に反対 命は、アメリカ帝国主義と日本独 労働者階級の歴史的使命である いる。 ように統一戦線政策が述べられて 分である。第三節を受けて、次の ある。 民主連合政府論の直接の背景と

一戦線政府をつくるために聞い、

族民主統一戦線政府の樹立を促進

アメリカ帝国主義と日本独占資本一線を確立し、ひろけ、つよめると 平和、中立、生活向上のために関 **実現をめざし、独立、民主主義、** はじめとする人民各層の大衆的組 うなかで、労働組合、農民組合を 「日本共産党は、以上の要求の 'n 主統一職線政府は革命の政府とな せるならば、その上にたつ民族民 わが国の独占資本の中心とす

| らを打倒するための出発点に立つ | ラインに対し、勝利しえないとと | えに、独立・平和・中立の日本を | 入れたが、われわれは、50年問題 | をあばき反革命的内実をはくろす | の支配に反対する人民の強力で広 きずく人民の政府、人民の民主主 統一戦線をつくり、その基礎のう 大な統一戦線、すなわち民族民主 戦線の基礎のうえに、人民の政府 る民主主義革命を、民族民主統一 とが述べられ、次に、との当面す 錢榴力を確立するととである。」 をつうじて社会主義革命に到ると 定し、そして、この民主主義革命 する人民の民主主義革命として決 資本の支配という二つの敵に反対 る革命の性格を、米帝と日本独占 とこでは、

最初に日本の

当面す が出来る。 | ことは、重要である。国会で安定 | 民主党派、民主的な人びととの共 ら人民に鄰仕する道具にかえ、革 ならば、国会を反動支配の道具か 大衆闘争とむすびついてたたかう 的に国会の職席を占め、国会外の 争において党と労働者階級の指導 戦線をつくりあげる。・・・・・との闘 同と団緒をかため、民族民主統 ともに、反動的党派と聞いながら 命の条件をさらに有利にすること した過半数をしめることが出来る する民族民主統一戦線勢力が積極

主連合政府論は、この部分ではふ 」を実現するための手段である民 命の「展望」であり、この「展望 ばこの部分は、彼らによれば、革 三節のところでは、今日の彼らの るととが述べられている。との第 れられないのは当然であるからで 民主連合政府樹立の戦術を導くよ うな部分は存在しない。なぜなら を確立することによってなしとげ を代表する政府の打倒のために一 | 府をつくる過程で、党は、アメリ ならば、民主権力がさしあたって らう。そして、一定の条件がある 打破していくのに役立つ政府の間 質したたかうが、かれらの支配を カ帝国主義と日本独占資本の利益 をつくるために奮闘する。この政 風に十分な注意と必要な努力をは に結塡し、その基礎のうえに政府 一致できる目標の範囲でも、統 党は、人民を民族民主統一戦線

一大な民族民主統一戦線が発展し、 反民族的・反人民的勢力を敗北さ 主義と日本独占資本に反対する確 十分に発揮されて、アメリカ帝国 するために努力する。…… 党と労働者階級の指導的役割が

			AI強果しこりであっこ。	みにか、石一年開節から武麦婦重し	終結するこ	こ、新しい国民政府を耐工しなす。	こ 工 実 甫 り 太 預 を 受 ナ 、 を 関 し に	が安協をせずに、五一年二月こ四	_	世界大戦後の国際共産主義運動内」	;
	į				_				_	200	÷
*** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *			よって、党内における自己の地位		五一年綱領を決定した五全協の	党反動政府を打倒し、そのかわり	一九五四年中央よりの衆議院選挙	として活動がつづけられ、徳田派	_	第 ク	13
1985年 19		Similar	に全問題をすりかえ、そのことに ;	-		は、何よりもまず、吉田、自由。	闘争と何のかかわりもなく過し、			通労力	<u>. </u>
			紀集、自立が従属かとという問題		しるとて	の巨蛇角圧をたたかいとるために	こと述べているように、他に重要			-	9
		△福岡>	当日ではこうない。 さらし		5 7	つ見気弾文をここれへいっこうこ	一に性くこうちょうこ、女よれも	この充一を受けまず当しこべて	ら遠ざけようとしていたが、中央一	及び、朝鮮労働党にあっては、米	*
			合里角の公式ニンバなつき、この			命一であり、その蹇遽ま、「日本	あたる。この間文芸評論多数整く	れられず、一たん弊背した。	宮本、志賀らの政治局員を活動か	当時の中国共産党、ソ連共産党	}
		イカロス容房	人民民主主義革命という当時の第一			げているのは、「民族解放民主革	となく、宮本百合子金集の刊行に	一九月~十月にわたって行ったが入	「所職」をみとめるかどうかで、	ムから批判されることとなった。	
「日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日		〈神戸〉	銭の支配の下での民族民主革命=	_	一戦線政府	が、それが当面の要求としてかか	たが、特定の組織的任務につくこ	臨中に対し「統一の申し入れ」を	十八回中央委員会の前段において	」は破魔し、当時のコミンフォルー	
			かくして、宮本は、外国帝国主	主義であったがゆえに、左からの	統一戦線の	主義革命という言葉は出てとない	援その他で、ときおり連絡はあっ	この全国統一委員会は、徳田派	_	本井道党の「占領下平利革命監網」	
1980年		西日本暦店	たであろう。	_	_	五一年編録のなかには人民民主	として解除される。以降、選挙応	一番異会を結成したのであった。	を終させたのではなく。ことから	・ノガもラミラは利・力とを、日	
		會根崎常店	ト」の道は選ぶところではなかっ	_		# T	369 一 二週間して才遊任者	自治頭を移動でることを含め、起	が多ったこうではない。 ここへら	ツペルラアシアニ多つことが、日	
		大阪ウニタ	てあった。もなえが一一で、ギン		にはあるいました。	55°	さらい 一つ 二種間ノニマダモデ	ウ舌助を閉台することを10mmに対する	、この中央委員会は、	国際的な階級顕争の熊点がヨーロ	
		△大阪>	こうつこの ひうちゃ 「トコンドスー	_		しようという銭布を付置してりて	_	とともこ、そのにめの政治的組織	った。	枠組みをゆるがせることによって	
			題の総括からいって不可能なこと	_		多数を獲得することによって推進		亀山、神山、蔵原、袴田ら諸同志	表するというととになったのであ	英・仏とソ連の戦後処理の方策の.	
			党への復帰)と彼自身の五〇年間			一戦線の上に立つ政府を、国会で	入ることを求められ、これに応じ	を求める中央委員、志賀、春日、	歴を撤回し、野切か自 批判を発	をめくる巨族解放闘争の発展カオ	
		ふたば世界	派主義者としての自己批判による		-	闘争の敬徐に対して、民族民主統	復党以降一五一年秋、地下活動に	断し、一中央委員会の機能の回復	はっき 八 で 反び 一つもり・た	ところで、中間プリ 単無当風	
		京都掛院	上の地位(五十年問題に対する分)	_	_	一年報管の導力革命の路線と重要	こうころで 選挙権	をとう悪土変の陶器である」と半	「ノフォレヘニ対応ノこう・・ノンで	111500、中國大教、明華半島	
		<京都>	こうなだったことは、彼自身の希領			一年間質の乗りを行うを乗ったも		一覧に分裂に覧り金集である。二川	和革命論)批判を受け入れ、コミ	にしたものであった。	
			つ免兑することは、皮自身の稠質) 参り弊攻尽ニ吉製しこ	そして、との革命の力を、「平	るが、宮本の「党家官案」は、五		一た「最も懐むべき最悪質の解覚主	ンフォルムの野坂理論(占領下平	東欧の人民民主主義革命をモデル	
で、そとである。ことで、大きである。 「「、		17 July 17 17	産党の理論水準における 原則か	_	に描かれている。	的適用、という二点を批判してい		徳田派を、GHQの政策に便乗し	志賀の反対によって、徳田はコミ	また、当時のソ連が直面していた	_
		名与愛クニタ	であろう。だが、彼は、当時の共		党綱領集』P一二六)という具合	唯一論、②中国の人民戦争の機械	もとすいて別途一つの論文として	制を築いたのであった。宮本は、	の決策をみだ。すなれち、宮本、	一口・ハの人民附続政府の経聴や	
である。 そした後に、一、十年の主席がおけ、いちゃらった。		へ名古量>	革命論と変わるところはなかった	_		五一年経録に関して、①暴力革命		ていた中央委員を除外し、地下体	オカークロログ製におして、一定	さなしさいただ さの経条に 三	
である。		1	は、構改派の民主主義=社会主義		解放勢力の利益を代表する選立政	一日本非画気の五十年」では	_	した彼田和領等等ラーセに反対し	ことと、河中央後においまで、これである。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	きばしたずにが、この各象は、ヨ	
		ルごコン監房	和的方法による/目標主要する		そなかりのはいので、のまたで	-		,	一大の分野は、一月十八四に明い	五可大会こおいて、実度的な标識	
		<横浜>	ログラミング へがきごれば ち		えっては日本のナベモの集を句よっ				長の発表した所態をめぐっての第		
するといるが、これに対して、物質機能の出来られた。 この人類を含むさいたが、第十一に対しての表現で、名間のの関係といたが、第十一に対しているが、大き環境に関係して、人の人類が表現を表現を含むして、人の人間の人間を表現して、大きの関係を表現を含むして、人の人間の人間を表現して、人間に関係となった。 この人類が表現を表現を含むして、人の人間の人間を表現して、人間に関係となった。 この人類が表現を表現を含むして、人間に関係となった。 この人間と表現を表現して、人間に関係となった。 この人類が表現を表現を表現して、人間のの人間に関係となった。 この人類が表現を表現を含むして、人間のの人間に関係となった。 この人類が表現を表現を含むして、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、というとの人間、人間、教育を表現して、人間、大きの人間、教育を表現して、人間、教育を表現して、人間、大きの人間、教育を表現して、人間、人に、人間、教育を表現して、人間、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、人に、			宮本項台の本心からすれば、下一		結ぶための政府となるであろう。	おし、そこからの「甌左戦術」の	_		オルム批判に端を発し、徳田啓記	周知のように、「占領下平和革命	
である。 ことであるが、大学では、大学の歌の歌の歌のが知の人 の、そとして成化して、一人間中で表現の音楽があられば、この名が知らない。 ことで、一般の歌の歌のでは、大学、である。 ことで、一般の歌の歌のが知の人 の、そとしていない。 ことで、一般の歌いで、一点の歌いで、一点の歌、一般を一覧をいい、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌いで、一点の歌、一点の歌、一点の歌、一点の歌、一点の歌、一点の歌、一点の歌、一点の歌		萩 鲁房	あった。		となり、各国人民との平和関係を	れた)の内実は、51年綱領の手な		_	一九五〇年一月六日、コミンフ		オ
であっている。 そしての後に、三十、日本の表別の書からした。 「一次の表別の子供でいる。 「一次の表別の子供でいる。」 「「一次の表別の子供でいる」 「一次の表別の子供でいる。」 「一次の表別の子供でいる。」 「一次の表別の子供でいる。」 「一次の表別の方形面へ、		八重州郡房	ることは火をみるよりも明らかで	一基準を保持してはいなかったが、				発表を要機に、分解闘争は、 宮本	星者の役割にひのできておった	になるというというよう	ŕ
		〈仙台〉	た機改派の理論よりも原則的であ	μ.	_				頂台の史明は欠りようであって。	ままっています。	
# 2 こしのたい。 その は、			日三三難一社会ご修革命をなない			-			この分成婦争の戦略及び、宮本	批判は、別の概念このにはなけれ	
		無明書	民民主義―土会民義古者がハッナ	よ、分成の本をなさず、シミパっ	_			あった。だが、GHQが六月六日	し、分裂するに至ったのである。	っとも、これらに関する全面的な	
する。 そして最後に、こく、から、から、たってきる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 で		/老日\ 	トロッキスト」)の理論の方が、	いたのであった。かっての国際派	ればならない。これは日本の民族	とうした歴史的経過のなかで、	_	_	オルムからの批判を受けるや混乱	一う意味においても必要である(も	
ない。こので、して、一大の関係というである。 「一大の関係を持ちている。 「一大の関係を持ちている。 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、」 「一大の関係を表して、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		k a /	「穀を主張した共産間(いわゆる「	一己の地位をただひたすら要求して					たか、当面の日井は コミンコ	そのておって ておへの反論とい	
である。ことの表現である。		フラネ語戸	さらにそこでは、プロレタリア独	なく六回大会中央委員としての自	大会網領			_	うまっとう	が してい こうしょう にんかい しょうしょうしょう	
であった。この表類が表します。 として必要と、こ 一方の表がである。 であった。 では、		ノ木売へ	論理的に優位をしめさるをえず、	また。この影動をくみとることも	i i	(_		欄裏央をの場所を明らかこしてい	
であったことが、またして後後に、こ 一方の響かの手に与った。 との公然だるの所の心理が状況の であった。 この公然だるの所の心理が状況の であった。 この公然だるの所の心理が状況の であった。 この公然だるの所の心理が状況の であった。 この公然であった。 この公然だるの所の心理が状況の であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 この公然であった。 このの経験が記します。 であった。 この公然であった。 このの経験が記します。 では、 このに 国際経験を主て、 このでは、 第十二年 では、 このに 日本ののとして、 さした。 このの に 「		し見く	国においては、社会主義革命職カ	の正製陶寺に何一つかかれたす	台翼的手直し	3)	-	_	<u> </u>	史を発表し、自からの手によって	
である。ことして必然に、こ 十八町中央委員会に提出された。 との公然だるの残の必存状のの いきいた 「国際主 を終し、回来を持たるのため、 「大のである。」 「大のでなのでは、大のである。」 「大のである。」 「大のでなのでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんでなんで		格別者	ガーマガルに 受対し力質の主要	(39日・20月・20日) 第三十三〇年十	•		·		_	日本共産党の五十年」と題する党	
		高度智足	う三部立らがこ 巻巻ノこず 三部	・三(女児近らつこ。 ぎはよご)日や			争の回避、分派に対するの	_	一者階級はこの国際階級闘争の展開	とくに、日本共産党は、昨年、一	
できた。ことでは、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きに		10年1月	会主義なないことがは問題を	う五つ平均通こ対する組織内限を			一宮僚的な人事権の発励と、		とされたのであった。日本の労働	ふれておくことが必要であろう。	
であるくっても、中国及 の		コマベ計写	ら替えば、人民民主主義革命かは	中央委員会の機能を回復するとい				_	_	れるに到った経過に関して簡単に	
である。ことが正視するとらが。		音洋寺ウニタ	何故ならば、当時の理論水準か	本の官僚主義と分派主義に反対し	はたすともに、共産	極左戦術の自己批判、		_	帝の主導権をめく。ても、中国及	かにこのプロ大会解領が決定さ	長
である。		ウニタを補	あった。	論問題一般にあったのではなく宮			_	_	300000000000000000000000000000000000000		
改度は		随文堂	り入れることを表明していたので	この理論的継承関係は単なる理	_	_	_	きの支持を表明していた。彼は町	石である	今日でも試金石である	
である。 ことでは、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。		アヴァン鬱房	し、思想的には構改派の要素をと	ことをみてきた。	て、経緯的に完削し、	*:	_	のであり、彼田沂に対して条件付	7 7 1 1 1		
(お、民主連合的比較) というように関係を終し、こ 十人間中央委員会とは、大会権のとなった。 度を硬化し、一方本語学の原始へという。 の名教授係、両者の内容をされているこ (国民解放民主革命に関してひない、大帝の) 内容を対している。 度を硬化し、一方本語学系が高めつ内容をされていることが、五十年編(というたが、大帝と自 教養者でしているが、その は、彼の後に発表していたが、五十一 に応」し、今日の富木原が、大帝の人名。そして収象に、革命の人名。そして収象に、革命の人名。そして収象に、革命の人名。そして収象に、革命の人名。そして収象に、革命の人名。そして収象に、本命とは、人民と主義を敗北させるならば、切り、とれに対して、徳田派は、協の姿勢をみせていたが、五十一 に応」し、今日の富木原対としたが出来、要は、乙のがつとたが出来、要は、乙のがの以下の月用は全て、東門に下ったのであった。 度を硬化し、一方本・会議が中等がたなインタシン についての声明、全部を持たる人では、民主連合的は構し、大名の後の表で立ていた。 度を硬化し、一方本語(大田派と政)というけを行った。いわゆる「本 年代のとて、さしあた」主義に反対して「他の後に発表した」(現の後に発表した「経過の構成してもならば、大民主主義と反対して「その偏向の意服、疾、トロツキストと古れているの物が変を自力のこととが出来、要は、一方本語(大田派と政)を対して、他の後に発表した。 に、一方を観え、田原のとでは、大民主主をのののととに、大民主主をのののととに他々らない、「一般なの人」と、他の後に発表した。 に、国際大人の関係の規定・ること、そして、大規を構成してもつい、たる。 に、一般体した。 は、彼の後に発表した。 は、彼の後に発表した。 は、彼の後に発表した。 は、彼の後に発表した。 は、彼の後に発表した。 この情には登場やの解な人と、かって、大会権にはしまり、七、人民と主主をのののとされているこのを表をとは、人民と主主をのかった。 度を硬化し、一方を経済に対している。 に、一般を解え、五、年編領との日、大会編(は、主義に反対して、一般の表で、と、力、一体が、人民と主主をのののとされている。 に、一般体には、音楽ともとは、人民と主を命が、人民と主を命が、人民と主を命が、人民と主を命が、人民を主義を合成、、人民と主をのかって、このが、大会権にはしまり、七のである。 「民族解放民主革命には、領領(本の人内を全されている)と、日本を持ている。 こと、そのながでもとりわけ、日、人民、大会権のとて、こののように、国教を作ると、たっして、大会権は、とのように関係と対して、人民と主を命が、人民と主を命が、人民と主を命が、人民と主をのかった。 東を変えという、土地ののかが関係と表がたる。 「民族解放と主義のは、領域(本の人内を全されている)の名教での人でもと、人民と主を命が、人民を主を命が、人民を主をのかっ、大会権のとなが、人民を主をのか。 第一本 か ことさんとによっ 事ををとは、人民 と 1 人民服や方を権は、との、 2 ととは、 2 というように関係を表現 2 というように関係とないに、 2 というように関係とないに、 2 というように関係を表現 2 というように関係を表現 2 というように関係を表現 2 というように関係を表現 2 というように関係を表現 2 というように関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というように関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というよりに関係を表現 2 というないに、 2 というないに、 2 というないに 2 というないに 2 というないに 2 といりないに 2 といりないいに 2 といりないに 2 といり		△東京〉	初は、経緯的には 旧所配済に立脚	能しによって修正したものである	一、日後月に下住して			の首切が不められた。としては	対する態度は	② 丘つ半問題に対する態度は	
2000と上に他ならない。			文は、日後の一は日子家ではたり	命・ニングにを三人につつでいる。		_		一の削減を求められ…一」こうこと			
一一方来資系の野田弥三郎のは、 して分系活動がつづけられた。		お井里井	こうとうこ用類を定在している。	一「人民銭争与治命一学「女のおう」	党的破産を自覚し、こ			_	でのある。	目頭の範囲でも統一戦機攻符をつ でのある。	
このでは、一方宗教系の野田所三郎のは、 して分系活動がつづけられた。 一次の大き、大きいしたり、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、		赤银反及警告	なく、自立か差異かが問題なのご	おいて、「暴力革命惟一主義」と				-		の条件があれば、さしあたっての	
- こことになったのである。			主義か社会主義かが問題なのでは	の基本骨格を継承し、ただ戦物に				_	統一戦線政府という内容で述べら	政府をつくることをめざし、一定	
大会欄領と合対比で行った。「党の発力を対して「大の変である」と近り、の生物で成立であるとと近り、の出物では投が、行われた上からの党の野田弥三郎らは、「党教を持たる分派の連棒状の、使用なが、大会欄(と分が、内容的には含まれているというとが、五一年欄(とつか、大田川の主なが、大会ででように、「党 野田弥三郎の ひきいた一国際主 まもものではなく、明らかに日本、派が牽みだされるが依頼地によう。「民族解放民主革命に関して次)「本名り、かつ、当面の民族解放民主革命とは、人民、関一宣本が入り、これに対しての要求であった。「党教を解化し、南田派は だったのであった。」「大田川の主なが、大会にはしたうえで、またってしたが、五十年欄(である。」「民族解放民主革命とは、人民、関一を変数した。」にあるように、「党 野田弥三郎の ひきいた一国際主 まもものではなく、明らかに日本、派が牽みだされるがな根拠が、五十年欄(である。」「民族解放民主革命には、当面の「のである。」「民族解放民主革命には、当面の「のである。」「民族解放民主革命には、一体、大会である。」「民族解放民主革命には、一体、大会である。」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の人の学とされている」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の人の学とされている」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の人である。」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の本の相様に対づる経験(というとが、五一年欄(である。」「民族解放民主革命に関して次)」である。「民族解放民主革命には、横閣・わが国の人の学とされている」「民族解放民主革命に関して次)」である。「民族解放民主革命には、横閣・わが国の本の相様に対づるが表した。」「大会である。」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の本の対解の支持を持つた。」「大会欄領と分が、後着団」(である。「民族解放民主革命には、横閣・わが国の本の対解の支持を持つた。」「大会欄領とのである。」「民族解放民主革命には、横閣・わが国の本の対解の支持を持つた。」「大会欄領とのが表した。」「大会欄領との対比、五一年欄(これ)、一体、大会欄(これ)、一体、大会欄(これ)、一体、大会欄(これ)、五一年欄(これ)「本会でが表し、一体、大会では、大会欄(これ)、一体、大会では、大会欄(これ)、五一年欄(これ)「本会では、大会では、大会欄(これ)、一体、大会では、大会欄(これ)、一体、大会では、大会欄(これ)、一体、大会では、大会欄(これ)、五一年欄(これ)「本会では、大会では、大会では、大会では、大会では、大会では、大会では、大会では、大			との間の論戦において、人民民主	て、八回大会網領が、五一年綱領	贈を国際派にもちつ	この武装闘争は新たなインタナシ	$\overline{}$		一っての、目標によってつくられる	主統一戦線を基礎にし、その上に	
大口の一つの傾向 官僚主義と分称。義者図 (これは当時は、極左分、共態党及び当時のコミンフォルム あり、そのなかでもとりわけ、旧 内容の活動の主義を分解。義者図 (これは当時は、極左分、共態党及び当時のコミンフォルム あり、そのなかでもとりわけ、旧 内容の主義を分解。義者図 (これは当時は、極左分、共態党及び当時のコミンフォルムの原 大口の大口の傾向 官僚主義と分称。義者図 (これは当時は、極左分、共態党及び当時のコミンフォルムの原 大口の大口の傾向 官僚主義と分称。義者図 (これは当時な) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本		が長く新	草案をまとめ、共産同及び構改派		共産主義者同盟は、その思想的系					れている、そしてさらに、民族民	
大口の 大口		マラへ花	を割り引いたうえで継承し、党章	われわれは、五一年綱領と八回	あり、そのなかでも					する道具にかえ」ることが主張さ	
		この組織日和見主義にある			派が産みたされる必		既田脱三郎 のひきいた	-	_	を反動支配の選男から人医に奉仕	E
そことになったのである。 「大の大郎の本が大のの であり、かつ、当面の内容とされているというという。 「民族解放民王革命は、満願しかの国の人を持ちいた。 「大の大郎の本が大のの であり、かつ、当面の内容とされているというとが、大田に対しての要求であった。 使る軽を解し、一方無対象の内容とされている。 使みを砂をみせていたが、五十 に応じて、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴った。 使みを砂をみたった。 大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、安郎と伴、大田に対して、大田に対し、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対して、大田に対し、大田に対して、大田に対し、大田に対し、大田に対し、大田に対して、大田に対しに対し、大田に対し、大田に対しに対し、大田に対し、大田に対し、大田に対しに対しに対しに対し、大田に対しに対しが、大田に対しに対しに対しに対しに対しに対しに対し、大田に対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに対しに		自の療法として出現しえた	命	社会主義	ル芝居」のほかで		野門に下ったのであった			を占ることが出来るならは、匿会	召拜
大力の含土の日報によっても多く。		の労兵となった様歌派カン	á)) !		(20月) 長月 こいつこ間重に		<u> </u>		割され 一個空で装買した過半数	FD 4
一方宗養派の野田所三郎のは、 して分系活動がつづけられた。		七回大会前に トロッキュ	ń	民族民主	1	が日本でありままりを記される主の日本の一切日本である主の日本の一切にある 利力		ţ,			1 8
大きには、このである。 全部を持つして、徳田原は、 位のを勢をみせていたが、五十一 に応じし、今日の宮本瀬舎の内容とされている 一方本資系の野田弥三郎らは、 して分系活動がつづけられた。 にかして、徳田原は、 位のを勢をみせていたが、五十一 に応じし、今日の宮本瀬舎の内であった。 様本と可称し、同様にしてうえて、あたって、一方本資系の野田弥三郎らは、 位のを勢をみせていたが、五十一 に応じし、今日の宮本瀬舎への第 すなわち、六全協とは、武装閣 の中には、曾葉としては出てこな 位の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、人民の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命に関して次の であり、かつ、当面の民族解放民王革命とは、横閣・わが国の本命の仕座のの活動な表現。 では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、一日では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日		しましにし、そのことに	でである。		t.	ø	_	-	0	ACC機能のIDSL IDを要性が限	4
できたがインーについての専列 全変を専門を与えて、第日承よ後 ここは客本の日報に対する複変が、守われこというため、かってある。 名質を育したがあった。 との民族解放民主革命とは、人民と主、民族のというになったのである。 「本の大きのは、して分派活動がつづけられた。 「いったのであった。こ 中の清美、分派関係の後来の上で、いが、内容的には含まれているこ 「彼の民族解放民主革命とは、人民したった。」 の名誉を得していたが、気が関係を受けるを受け、から、有限の民族解放民主革命とは、人民に主義、本の民族解放民主革命に関して次の、であり、かつ、当面のの経療の不足、人民の民族解放民主革命に関して次の、であり、かつ、当面のの国の人を受けるのです。 の名誉を得していたが、内容的には含まれているこ 「独立を始めている」 「などとになったのである」 「などとになった」 「ないでは、海徹」 いが国の革命の性質の遠流な表現 いかしょう 「ないている」 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない		っていこと 一つ 一般	国主主教事命の内容とされている のでは、	で見る。	行わなり、大ちの	_				この民族民主統一地段やりは、国	:3
しめりけを行った。いんゆる「応」年に月十日、コミンフォルムの四」「走を省み出したのであった。」」争り音楽、分形場番り表来り上で、いか、内容的によされている。「高力を見解するとなった。」という地域には、「彼の姿勢をみせていたが、五十一(に応」じ、今日の宮承顕治への第(すなわち、六全協とは、武装関(の中には、音楽としては出てこな)とこで明らかな如く、五一年編したのであった。「お布」と可謂は「関目の単元に、分形指則にふみ)なかで、党勢を失った唯中は、安 物版権への協力を求められ、これ 「ったのだった。」が希として「五全協投席ということが、五十年編(でおり、人民民主王)【民民主主義を命の内容を示すもの「大田中央委員会に提出されて、 との公然だる分形の近年状況の として「五全協投席」が、今日の宮承顕治への第(かたのだった。 の名誉復帰、同音の掲手による。 の民族解放民王革命に関して次の「であり、かつ、当面のわば四の人・五十年編(でいてある)、「五全協投席)の日本語とは、本語ということが、大田・石の民族解放民王革命に関して次の「であり、かつ、当面のわば面の人・五十年編(でいてある)、「五全協投席)の中には、音楽としては出てこな ことで明らかな如く、五十年編(でいてある)、「五全協投席)の出来によって、また。て、こと、うり、教育・日本・「本」という、大学師とは、「本」には、「本」		ここらかかりらず、直蔵調・一条第一の原具的です。	発生性炎症は0月季にあるに、7月	_	守われた上からの意	_		_		くりあげることが述べられ、欠こ	月
のり、これに対して、適田化は、 場合を終をみせて、たが、五十一 こおしい、今日のまま現自への著 すなわら、たと思うさ、たままり、ウルコよく、背景してておけて、たい、五十年親 てみたっている。 「統一と同じ、分が指動にふみ なかで、党勢を失った陣中は、安 物類権人の協力を求められ、これ ったのだった。 一様の一方の著語の下に、分が指動にふみ なかで、党勢を失った陣中は、安 物類権人の協力を求められ、これ ったのだった。 一様の一般では、一様の上の一方の著語の「正はして次の」であり、人民民主王・「民民主主義革命の内容を示すもの「おしていっている」。 「のこが音楽の声は、一切ではいっている。」 「本にてしょうで、また。てしょく、音楽を呼して次の」であり、かっ、当面のもの性質の遠流な表現。 「本にはいっている」、「のまない。「ないり、から、一方のよいの「ないり、「ないり、から、一方のよいの「ないり、「ないり、」である」(五全協検定)である。「の世界はいる。「本にはいている」「ないり、人民民主王」「民民主主義革命の内容を示すもの」であり、「ないり、「ないり、「ないり、「ないり、「ないり、「ないり、「ないり、「ない		て、網質上の原則句を対すした。		いが、内容的こま含まっているこ						を重じて、民族民主統一敗隊をつ	2
変態見参い下に、分旅が商心よみ なかで、党勢を失った確中は、妥・協権権への協力を求められ、とれ、ったのだった。 「お手を買んの内閣・大人民民主工」民民主工 民民主工 長氏主工 (五上年寅夏 であり、かつ、当市の中央委員会に提出された志 との公然たる分旅の並存状のの そして「五全福指導部より六会 「統一と団神神」の関和でしかなか ように補促しており、人民民主工 [民主主義革命の内容を示すもの 一てお客様の野田弥三郎らは、「して介家活動がつづけられた。 険いたのであった。 「の名誉復帰、両書の孝手による。 の見無解放民主奉命に関して次の てあり、かつ、当面の内容を示すもの 「の名誉復帰、両書の孝子による。 の見無解放民主奉命に関して次の てあり、かつ、当面のの派儀な表現・そととして、でする。 「おり、かり、 「日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本		した規定を収っていこう!		の中こは、智養としては出てこと	すなわち、六全窈-					いこでは、飛舠こ、鱧々の関節	5
十八回中央委員会に提出された志 この公然たる分派の並存状況の そして「五全福智事部より六金 「統一と団精」の陽和でしかなか ように補促しており、人民民主王 民民主主義革命と内容を示すもの 一方志賀派の野田弥三郎らは、「して分派活動がつづけられた。 咲いたのであった。 の名誉復帰、両宮の増手による、 の民族解放民主革命に関して次の であり、かつ、当面のわが国の人。 そことになったのである 4代 会議での中央指導家へと近り の名誉復帰、両宮の増手による、 の民族解放民主革命に関して次の であり、かつ、当面のわが国の人。 そことになったのである 4代 会議での中央指導家へと近り の名誉復帰、両宮の増手による、 の民族解放民主革命に関して次の であり、かつ、当面のわか国の人				-	ったのだった。		_			を握ることができる。」	e
一方志賀派の野田弥三郎らは、 して分派活動がつづけられた。 咲いたのであった。 の名苓復帰、両省の搏手による、 の民族解放民主革命に関して次の であり、かつ、当面のわが国の人 収 名どとになったのである 4省る関したではましま。全様を関したのは、綱領 わが国の革命の性質の適価な表現					「統一と団結」の唱		_	_		て、主権を回復し人民の手に権力	(8
そことになったのである 合物を関したのに立し参一全部と 後、合注面の中央指導部へと振り の世半によって観光にしたうえで あたって」という決議には、綱領 わが国の革命の性質の遠確な表現			であり、かつ、当面のわが国の人	の民族解放民主革命に関して次の	の名誉復帰、両者の	咲いたのであった。	して分派活動がつづけられた。		線政府の樹立を促進することが述	からアメリカ帝国主義を追い払っ	3).
・6日によっこりでもら。 ・金成を崩へてりこうと称これを、そにはり、これには、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに		_	一わが国の革命の性質の適確な表現		7 の批判によって帳消にしたうえで	一 後、合法面の中央指導部へと返り	全協を開いたのに対し統一会議と	ることになったのである。	1くるために関い、民族民主統一戦	る売園的反動交配を倒し、わが国	

<必

革命戦争派の綱領の原則問題

「歴史と階級意識」の批判 上 榎 原

読

均 (序章九号)

均 (序章十号)

矢 草 三 郎(査証五号)

「革命戦争派の危機」とは何か 三 菱 太 郎(査証六号)

文>

■ 革命戦争勝利の道とは何か